

日本財団 ROAD プロジェクト
× 震災がつなぐ全国ネットワーク

週刊 つぶやき

(2011.6.20～2012.3.14)

1万人のつぶやきから



日本財団 ROAD プロジェクト × 震災がつなぐ全国ネットワーク
東日本大震災被災地支援活動報告会

2012年3月16日（金）

目次

第1号／仮設住宅に関するつぶやき	1
第2号／50代、60代に関するつぶやき	2
第3号／お金・手続きに関するつぶやき	3
第4号／仕事に関するつぶやき	4
第5号／福島に関するつぶやき	6
第6号／仮設住宅に関するつぶやき	8
第7号／お金・仕事・暮らしに関するつぶやき	11
第8号／趣味・余暇に関するつぶやき	13
第9号／買い物に関するつぶやき	14
第10号／ボランティア・行政職員のつぶやき	15
第11号／20代・30代のつぶやき	18
第12号／子どものつぶやき	20
第13号／生と死に関するつぶやき	23
第14号／心身の不調に関するつぶやき	25
第15号／冬に向けてのつぶやき	27
第16号／ペットに関するつぶやき	29
第17号／孤独・孤立に関するつぶやき	32
第18号／ボランティアに関するつぶやき	34
第19号／手に関するつぶやき	36
第20号／新たな土地・気候に関するつぶやき	38
第21号／冬の寒さに関するつぶやき	40
第22号／「することがない」というつぶやき	42
第23号／出会い・再会に関するつぶやき	44
第24号／家族・夫婦に関するつぶやき	46
第25号／風呂に関するつぶやき	49
第26号／子育てに関するつぶやき	51
第27号／正月に関するつぶやき	54
第28号／足湯の力に関するつぶやき	56
第29号／酒・タバコ・パチンコに関するつぶやき	59
第30号／将来への期待と不安に関するつぶやき	61
第31号／引っ越しに関するつぶやき	64
第32号／福島の今、に関するつぶやき	66
第33号／過去の津波に関するつぶやき	69
第34号／男性の閉じこもりに関するつぶやき	72
第35号／海に関するつぶやき	74
第36号／被災体験に関するつぶやき①	76

週刊つぶやきについて

「週刊つぶやき」は、ROAD 足湯ボランティアの活動で聞いたつぶやきから被災地の課題を整理し、広く一般の方に知っていただくため、2011年6月からほぼ一週間に一度、メーリングリストと「ROAD くんブログ」上で発表してきたつぶやきの抜粋です。

目次にトピックをまとめましたので、気になるトピックを索引のように開き、それにまつわるたくさんの声を読んでみてください。

また、つぶやきからは被災された方々が地震の前にどのような暮らしをしていたか、どんな人生を歩んでこられたのか、様子が鮮やかに伝わってきます。一人ひとりの命、暮らしに目を向けることで、私達みなぎ次にできる支援を考える一助になれば幸いです。

2012年3月
震つな×ROAD 足湯事務局
road-ashiyu@nippon-foundation.or.jp

関連ウェブサイト

週刊つぶやき：<http://road-nf.typepad.jp/michi/>
ROADプロジェクト足湯ボランティア Facebook：[roadashiyu](#)
足湯のつぶやき BOT on twitter：[@AshiyuBot](#)

関連書籍

「生きている 生きてゆく：ビッグパレットふくしま避難所記」／アム・プロモーション

“Alive, Living and Life”／電子英語版 <http://binb-store.com/>

※無断引用を禁じます。

週刊つぶやき第1号／仮設住宅に関するつぶやき

○仮設住宅に当たったけど、**内緒**にしてるんだ 4月26日 大船渡 60代女性

○何をするにも気をつかって。はあー。仮設に入っても**気を使う**んだろうねえ。 4月27日 大船渡 40代女性

○仮設住宅は2年住めるみたい。2年過ぎても大丈夫って話だけどね… 4月25日 石巻 70代女性

○一応仮設住宅に申し込んだんだけど。学校よりやっぱり**家が一番**だよ。 4月25日 石巻 70代女性

○親戚がないので**相談する人が少ない**。仮設住宅があたらない。 4月25日 石巻 60代女性

○仮設も待ってたけど、4畳半が2つなのよ。夫婦2人でも荷物が多いとねえ、狭いわよね。だから公団に行くことにしたけど、件を離れると、全部自分で揃えなきゃいけないし、手当の6万円ももらえないのよ。**残った人だけもらえるなんて差別**よね。5月11日 郡山 70代女性

○仮設に入るより**ここにいたら金がかからない**からいいかなあって迷っている。 5月11日 郡山 70代男性

○同じ部屋の人もみんな出てしまっ**てひとり**になってしまっうんだ。 5月19日 石巻 30代女性

○何しろ遅い！**自分で建てた方が早い**よ。 5月19日 石巻 50代男性

○避難所の方は家が無い方が多いでしょうけど自宅があってもライフラインが最近復旧したばかりで、それまでは**私たちが生き地獄**だったよ。どちらも被災者だからね。5月21日 気仙沼市 70代女性

○早く仮設に入りたいんだけど、仮設に入ったら**やることなく**てどうしよう…6月8日 陸前高田市 60代女性

○隣の人見たことないんだよ。**誰が住んでいるかわからない**よ。6月8日 陸前高田市 70代女性

○仮設、当たっても行きたいの半分、行きたくないの半分。この人達は仲が良いからまとめて10世帯とか一緒に入りたい。**孤独死**とかが怖い。6月15日 石巻 60代女性

週刊つぶやき第2号／50代、60代に関するつぶやき

今週は準備第2号、「週刊つぶやき～50代・60代男性～」です。今回の災害では「なかなか足湯には来られない層」の方も多く姿をみせて下さいます。

○一時帰宅説明会でいろんなくだらねえ質問ばかりして、また町も**なんだかわかんない**こと言って疲れるわな。 5月13日 50代 男性 郡山

○ここいらあたりは福島は四重苦だからな。**地震、津波、原発、風評被害**。ああ東京の人なのかい。東京電力福島第一原発っていても、東京電力の部分は言われなくて福島第一ばかり言われっからよ。東京の人は知らなかったんでねえの。 5月13日 50代 男性 郡山

○女の子が良かったな一笑今はみーんな仕事ない。**ぶー太郎**笑 食べ物もう余ってんだよ。でもたくさん持ってくるもんだから。セブン弁当の方がうまい。 5月17日 60代 男性 石巻 女川

○食べることはできても遊んでばかりは**いられない**からね、仕事しないと。なにしようかな… 5月18日 60代 男性 石巻

○もう飽きた。働いて帰ってきても体育館だから**落ち着かない**。家決まるまで休んでたら**クビ**になった。ひどい話。 5月18日 50代 男性 石巻

○娘は本当はあげたくなかったんだけど、恋愛してたから。ああ**久しぶりに娘の事**を話したよ。 5月19日 60代 男性 石巻

○ここ体育館での生活は昼間は**退屈**だ 5月20日 60代 男性 気仙沼市

○私の家は高台にあったから家は無事だったんだけど、周りには言いづらくてね。 5月21日 60代 男性 気仙沼市

○夜は周りがうるさくて寝られた状況ではない。妻は母親と別の場所で暮らしている。ちょっとさみしいかな。今は一人で避難している。 5月29日 50代 男性 女川

週刊つぶやき第3号／お金・手続きに関するつぶやき

◇週刊つぶやき◇第3号のテーマはお金や手続きに関すること。

こうしてみると、「通帳、証書がなければ何もできない」とあきらめている方が多く、「何をやる元気もない」と手続きを取ることをさへままならない人々の声が聞こえてきます。

また、「仮設にネットがなく仕事を探せない」という声もありました。東京で考え出されている様々な支援策がきちんと被災地の元へ届いているのか検証する必要があるでしょう。もし情報が届かないのであれば、その間をボランティアが走って埋めることも考えなくてはなりません。

○美容師をしている。家は全部流された。またお店始めるにも1000万円くらいかかるからやめることにした。もったいないけどね。4月5日 七ヶ浜 女 70代

○秋田とか行ったら住むことも出来るけど、3ヶ月後には出なきゃいけないし、この土地を離れたくないのね。国がせめて、半分でも出してくれたら、なんとか借りることが出来るんだけど。4月8日 石巻 女 60代

○一年半前に息子がパソコンを買ったんだけど流されちゃってね。物があれば保証があって修理も出来るんだろうけど、ものがなくなっちゃたからね。息子が探そうって言うんだけど、これじゃみつからないよね。4月11日 石巻 女 60代

○障害のある娘が居るので80歳までは養殖で頑張るつもりだったがもうダメだ。もう一度最初からやり直す若さも気力もない。若い人達は、別の職種にと考えている。漁師・養殖業はもう何年も復活出来ないと思う。障害のある娘に何も残せない。4月21日 石巻 男 70代

○仮設住宅に入れるのもいつになるのか、身内が2人亡くなっているが、通帳も保険証書も全て流されて、生き残ったものも大変だよ…4月23日 石巻 男 60代

○眠れないですね。先のことを考えると。港から1.2kmくらいの築20年の家も、ローンを残して流されましたからね。今は何もやる気が起きない。やるが多すぎて。違う地区に2Kのアパートを借りたんですけど。もう沿岸には住みたくない。残った家でも遺体が出たりしてるんで、同じ家にはもう住めない、という人もいますよ。TVで言われても何をがんばればいいのかわからないんですよ。4月24日 石巻 男 50代

○自宅があった土地は地盤沈下でもう住めない。家の玄関まで波が来るようになり、家を建てるのは禁止された。集落がバラバラになる前にできるだけ集って35人くらい花見をする。4月28日 気仙沼 男 不明

○一時帰宅できるといっても一世帯2人まででは、金庫の開け方、証券の場所その他、分かるわけがないから持ってこれない。4月30日 郡山 女 80代

○精神的に参っちゃって・・・2カ月も経ったからこんなじゃダメなんだけど、お父さん見つからないとね。でも骨だけでも見つからないとお金どうのこうのってあるんだけど難しくって、何言ってるか理解できなくて。家はもうしょうがないんだけど、子供の生まれたときの写真とかが欲しいけど、海に近いからなーんも残ってないの。5月16日 女川 女 60代

○仮設ではインターネットが使えない。ケイタイしか使えない。仕事を探したりしたいのに、パソコン、インターネットがない。6月14日 陸前高田 女 30代

週刊つぶやき第4号／仕事に関するつぶやき

今回のテーマは「仕事」です。

被災地の復興、生活再建に向けて歩んでいく中で「仕事」というのは非常に重要だと思います。炊き出しの手伝いという「仕事」を見つけてとてもうれしい！というつぶやきもありました。ボランティアのあり方ということについても考えさせられるものです。

○仮設ではインターネットが使えない。ケイタイしか使えない。**仕事を探したりしたいのに、パソコン、インターネットがない。**6月14日 陸前高田女 30代

○今まで船の仕事をしてきた。去年新しいのを買って、まだ1年しかたっていないのに、流されてしまってどこへ行ったかわからない。買ったときの**ローンだけ残った。**6月14日 80代 男性 陸前高田市 仮設住宅

○今まで畑仕事をしてきた。野菜を育てると、**育てる楽しみもあるし、食べる楽しみもある**からいい。だけど、もう全部流されてしまった。6月14日 70代 女性 陸前高田市 仮設住宅

○炊き出しの手伝いを始めたので、**仕事がある喜び**を感じる！6月15日 50代 女性 石巻 避難所

○今**自転車**で1時間かけて仕事に行っているんだ。6月16日 40代 男性 石巻 避難所

○日本に来てから14年、子どもも12歳、冷凍食品会社で勤務していたが、**津波で解雇**になった。解雇保険も3か月でまだ仕事が見つからない。それがものすごく心配。6月3日 30代 女性フィリピン人 気仙沼 避難所

○地震のあとはたくさん仕事があって、みんな**手が硬くなっちゃったよ。**6月5日 60代 男性 気仙沼 避難所

○**工場はやられちまった**んだけど、今は一応仮設住宅に工場もリクエストしてるんだけどね。6月5日 60代 男性 気仙沼 避難所

○元々は水産の仕事をしていたけど、地震でやめた。会社は再開したけど、送迎がなくなったから**行く気がなくなった。**6月4日 50代 女性 気仙沼 避難所

○仕事がないから**避難所でボランティア**として働いている。6月4日 男性 40代 気仙沼 避難所

○この年になっても**養殖の仕事はまだまだ**したいだ。40代、50代の若いものいるけど、まだまだ負けない自信ある！6月25日 80代 男性 気仙沼 避難所

○母は79歳で寝たきりだし、父も80歳と高齢だからね。**何か仕事をしない**といけないよね。頑張る。6月12日 40代 男性 郡山 避難所

○向こうでは**原発関係の仕事**をしていたよ。今は仕事を探しているけどなかなかないね。6月12日 50代 男性 郡山 避難所

○災害で仕事がかびになっちゃって。**女の人は危ない**からって。6月25日 50代 女性 いわき 避難所

○息子が仕事を辞めさせられて、**考え過ぎて精神病**になっちゃったんだ。だから郡山で嫁でも探せって言ってるんだ。7月3日 60代 男性 郡山 避難所

週刊つぶやき第5号／福島に関するつぶやき

今回のテーマは【福島】です。

ROAD 足湯隊では、郡山にも部隊を派遣しております。また、福島県内の学生たちが足湯隊を結成し、いわき市などでも足湯活動を展開しております。やはり、福島の声は他のそれとは違う側面が大きな気がします。この問題は、単に福島県の問題ということではなく、日本全体として取り組んでいかなければならない課題ではないでしょうか？

○ここいらはまだ野菜作っても食べられるからよいわよね。**一時帰宅なんていっても戻れるわけじゃないし。**野菜とかきゅうり見てるとあそこを思い出すわね。6月11日 女性 80代 いわき

○人間関係がね。私途中で入ったのもあるし。**視線がすごい。**どこにいてもこういうことはあるからしょうがないけどね。6月11日 女性 60代 いわき

○仮設に応募しているんだけどね。**仮設に入ったらどうなるのか**すごく心配。6月11日 女性 60代 いわき

○東京にいたんだけど、だめね。2週間が限度だった。耐えられなくて。東京に行っても**情報が全くない**から。一時帰宅したら何も盗られてなかった。でも泥棒がひどくて。檜葉のまわりの富岡とかでも泥棒がひどくて。6月12日 女性 60代 いわき

○内郷に遊びに行くの。ここにずっといたらよくないっぺ。27分のバスで。車は置いてきちゃったからね。6月12日 女性 60代 いわき

○おれは1回東電に行って話してきたんだ。ここにいる人たちは**ストレス**がたまっぺ。6月12日 男性 40代 郡山

○向こうでは**原発関係の仕事**をしていたよ。今は仕事を探しているけど、なかなかないね。6月12日 男性 50代 郡山

○富岡から避難してきて、両親の兄弟が千葉とか埼玉に住んでるんだけど、電車の乗り換えとか怖いから、そっちの方には住めないんだ。6月12日 男性 50代 郡山

○牛食用飼ってたんだけど**みんな逃がしてきた**よ。殺せないべ？6月12日 男性 60代 郡山

○一時帰宅で**疲れちまった**よ。防護服に帽子に、暑くて暑くて。車しか取りに行けなかったんだよ。車に荷物載せとけばよかったよな。6月25日 男性 50代 いわき

○仮設はなんでもそろってる。新品。**あとは車**だ。置いてきちゃったから。一時帰宅したときちゃんとかかったから大丈夫だと思うんだ。6月25日 男性 50代 いわき

○家にどろぼうが入ってるのが多いみたい。**地元のもので食べられないのが切ない**。畑と田んぼやってたんだけど、機会の中にお米しまっぺってあって。それも持って来て食べちゃだめなんだって。作ってあるのにね。うちの米が一番おいしいのにね。買って食べなきゃいけないのが悔しい。あと何年、作物を家で作れないんだろう。いつまで続くのかね。せめて見通しがつけばね。6月25日女性 70代 いわき

○人生すべて一からで、**これからが一番大切**だから。毎日ボランティアの方がきてくださり、気がまぎれて楽しい。6月25日 女性 80代 いわき

○国の許可がないと住んでた町にも家にも帰れねえんだよ。6月25日 男性 70代 いわき

○娘には気を遣うし。いろんな行事があるとこ連れてってもらったけど、やっぱり**友達がいなくてつまらない**よ。だから友達がいるところに行きたい。6月26日女性 80代 郡山

○三春に行くことになったけど、富岡の役場がこっち来ないで、三春に来いとばかり言うから大変だった。川内のほうはスピーディーだけど、富岡はダメ。いわきとか街中の人には優遇されてるけど、三春の外れだと**サービスを受けにくくなる**。6月26日男性 70代 郡山

○俺はもう年だけど、**俺にも夢がある**。ある町に行って米を作ることだ。もう富岡には戻れないかもしれないから、その町で米農家を続けたい。6月26日男性 60代 郡山

○娘は原発事故で避難、失業し、**家のローンが27年**残っている。建てて3年しか経っていなかった。7月2日 男性 60代 郡山

○仮設住宅はまだ決まらないんだー。**申込みの書き方もよくわからなくて**75歳過ぎたもんだから入れると思ったっけー。7月2日 男性 70代 郡山

○息子、孫が**東電**に行っていて心配。7月3日 女性 70代 いわき

○仮設いても**会話ないし**、だからこうやってこっちビッグパレット来てみんなと色々話してる。7月3日 男性 60代 郡山

○娘が2人いるんだ。この震災で**みんなバラバラ**になってしまったことがとてもつらい。近くにいれば安心するけど…。7月3日 男性 30代 郡山

週刊つぶやき第6号／仮設住宅に関するつぶやき

今回のテーマは【仮設】です。

第1号に続き、【仮設】というテーマですが、時間が経つにつれてやはりつぶやきも変わってきました。ROAD 足湯隊でも避難所の足湯から仮設住宅で

の足湯へと移行しつつあります。つぶやきも、より個人の状況や感情が表れているものも多くなってきました。前号でご指摘があった通り、多彩なボランティア活動が必要不可欠だと感じます。

○仮設にいと一日が長く感じてしまうのよ。仮設は 4.5 畳しかないし、家は 10 部屋くらいあったの。6月18日 山元町 女性 60代

○仮設は狭いから椅子の食卓がおけなくて床に座るから膝が痛くなるし、足首にタコが出来る。困ってる。6月18日 山元町 女性 40代

○一日がととも長く感じる。もともと住んでいた家は 7~8 部屋くらいあり、今は仮設で狭いところで生活し一日が長い。6月18日 山元町 女性 70代

○仮設は年寄一人だと 3,4 人まとめてひとつの部屋になるって言われたのよ。**キツイよねー**。狭いから子どもや孫が来ても狭くてねー。さっきも孫と頭ぶつつけたの。6月19日 山元町 女性 50代

○主人は夜勤もあって仮設はカーテンも薄くて明るくて眠れない。押入れに入って寝ている。6月19日 山元町 女性 60代

○仮設に入れるけれど、年金暮らしだから心配だね。**ラジオ体操があったらいいのに**。6月24日 亘理町 女性 60代

○仮設当たったんだよ。最初に当たった所はすごく遠くて断ったの。今度のところはちょっと近くなったからね。**今度断ると、次はどこになるかわからないし**。6月25日 気仙沼 女性 80代

○仮設に入るから、これからゆっくり家の整理しようと思う。**避難所はみんながいるから絆が深まって家にいるより全然良い**。壁もないからすぐ会話も出来るし、夫婦げんかも聞こえるし、おもしろいよ。6月25日 亘理町 女性 70代

○ゴーヤとかトマトとか、仮設ではプランターで、また何か育てられればいいね。6月25日 亘理町 女性 70代

○仮設が当たって家族 5 人で住む。ここよりも**やっぱり仮設がいい**。6月25日 亘理町 男性 10代

○最近、寝ても寝ても寝られる。…今になって避難所生活の**疲れがきてる**のかねえ。今はバイクもないし。道もダメでしょう。お店もねえ。だから家で眠くなっちゃって。お昼から寝ちゃう。今までそんなことなかったのに。6月26日 気仙沼 女性 70代

○生まれも育ちもね…**ここなんですー。最高の場所だったんだけどねー。最低最悪の場所になってしまいました**。もう怖いからねー。住みたくないんだけど、建て替えもね…あれだから、そこに住むことになると思います。もうね、三陸地震とかもね、まだあるみたいだから、もう次は逃げらんねえなあとね、思うんです。6月26日 気仙沼 女性 70代

○近所の人と避難所も仮設住宅も一緒によかった。**知ってる人がいて、よかったのよ**。6月26日 気仙沼 女性 70代

○3月11日から酒は飲んでいない。**仮設では飲んで騒げない**。6月28日 陸前高田 男性 60代

○みんなに助けられたから次は**だれかの役に立ちたい**んだ。うちはお父さんと別々の部屋で過ごしていたから、仲良くやれてたんだ。仮設だとそういう訳もないでしょ。もう避難所の人が仮設に移ったら、足湯は来てくれないでしょ。6月28日 陸前高田 女性 70代

○この人隣の女性にも仮設に入ってから初めて会ったんだよ。仮設入るとみんな頭おかしなっちゃうのか、**全然外に出てこない**んだよ。6月28日 陸前高田 男性 70代

○仮設にやっと入ったけど、四畳半 3 つ 2 つ？と台所ここだけは広いに 3 人で狭い。2 年後にどうなるかなあ…**土地はあるけど、建てるお金がねえ**…。6月28日 陸前高田 女性 80代

○畑もダメになっちゃって、**毎日仮設で寝ころがるしかねえ**から、杖つかねえと歩けねぐなっちゃった。6月28日 陸前高田 女性 80代

○7月1日から仮設に入居した。ビッグパレットの方がいいなあ。**仮設は暑くて**。涼みに 1 日 1 回は来てる。7月10日 郡山 男性 60代

○いつも歩くんだけど、仮設の周りは砂利だから押し車だとガタガタして歩きにくい。7月10日 郡山 女性 70代

○実は仮設に当選したんだけど、周りに当たってない人もいるので言い難くてね。7月10日 気仙沼 女性 60代

○仮設は暑くて寝れね。天井が低いからな。エアコンの使い方がわからないから、網戸開けて寝てる。7月9日 郡山 男性 60代

週刊つぶやき第7号／お金・仕事・暮らしに関するつぶやき

ROAD 事務局より◇週刊つぶやき◇第7号をお届けします。今回のテーマは【お金・仕事・暮らし】です。

仮設住宅の入居がどんどん進んでいる一方で、暮らしの不安がたくさん出てきています。さまざまな仮設での悩みにボランティアが耳を傾け聴くということも大切です。ボランティアだけでなく、専門家や行政もしっかりと話を聴くことで不安が安らぐかもしれません。

このつぶやきから様々な課題が浮き彫りになってきます。つぶやき・課題に対してのコメントをどしどし募集していますので、よろしくお願ひします。

○少し前に仮設のお風呂ができてね、女の介護さんがお風呂に入れてくれるの。前は20分かけてお風呂に行ったけどね、歯医者やオオトモ病院？に行くのにはタクシーだと2000円近くかかるのよね。気仙沼 7月8日 女 60代

○今こっちで仕事探してます。気仙沼 7月9日 男 20代

○仕事がないから草むしりばかりしてんの。電車も走ってないし、どうなのかねえ。 気仙沼 7月10日 女 70代

○毎日へちまやら花やらやってんのよ。夕方は畑に行っただけ震災後始めた。山元 7月12日 男 60代

○神戸の時は他人事だと思って何もしなかったのに。神戸の人たちが来てくれて、あの時は助けてもらったからって。これを経験しなかったら、一生、人は一人で生きてるんじゃないってわからなかったかもしれない。だからよ

かった。もし今後どこかで災害があれば、絶対に行くし。悲しいことでは涙でない。優しい言葉かけてもらおうと涙出る。山元 7月12日 女 60-70代

○いちご農家の人は、トラクター買ったりして、復興までにたくさんお金がかかるからたいへん。山元 7月12日 女 70代

○本当は冷房をつけたいけど、電気代のことを考えると扇風機を使わざるをえない。冷房すると足がだるくなって大変だ。山元 7月12日 70代

○農家をやってたけど、流されてしまった。またいちごを作りたいけど、先が目途はまだたたね。今年七十になりました。山元 7月12日 男 70代

○津波に流されて記憶がなくなったけど、助かった。200万円流されて、お金も無くなったけど、200万円で命を買ったと思えば安いよね。仕事もあるし、夫の仕事もあるからまだいいね。山元 7月12日 女 70代

○前は畑で野菜を作ったんよ。今年みたいに暑くて雨が少ないと、おいしい野菜ができるんだけどね。仮設だから作れないけど。仮設では音が良く聞こえるから、大きな声はダメって言うけど、私はもともと声が高いから。大きい声出すと、周りにも聞こえたかしらって思ったりするけど、仕方ないよね。山元 7月13日 女 50代

○27年間働いて建てた家が完全に流された。まだ135万円の補償しかもらっていない。宅地を国が借り上げて欲しい。できれば部落のみんなと暮らしたい。高台にでも、現在の仮設の場所にでも、団地を作ってほしい。農家は家だけでなく、田畑やトラクターなどの道具もすべてなくなってしまっただ変だ。田畑はガラスや釘が入って使い物にならなくなった。山元 7月13日 女 80代

○今日は朝パチンコで負けたから、昼は寝るしかないわなー。今困ってることは仕事がないこと。昔はいちご作ってたんだよ。山元 7月13日 男 80代

○足りないものは「お米」「扇風機」。もらえてる場所とそうでない場所があるべ。集会場を開放してほしい。班長にカギを借りに行くのが億劫なので。たとえば、9~18時開けるとか。家族3人でいちご農家やっていたんだけど、息子だけ震災後初めて勤め出した。申し訳ない。山元 7月14日 女 60代

○仮設住宅内にバスが走るようになればいいのに…。大分から届いたうちわとメッセージに涙が出た。お返事をしたいが、はがきを買いに行くのに40分歩かないといけないので遠い。郵便ポストもあればいいのに。亙理町 7月20日 女 60代

○仮設が入れたら、次は職業探しで今、求職中なんです。でも職もないから、本当、悩みは尽きないよ。陸前高田 7月11日 女 50代

○子供が高校女中学校男のダブル入学で制服等全部揃えたのに、すべて流されてしまった。使っていないのに請求書がしっかり10万円くらい届き支払うのが辛かった。陸前高田 7月19日 女 40代

週刊つぶやき第8号／趣味・余暇に関するつぶやき

ROAD 事務局より◇週刊つぶやき◇第8号をお届けします。今回のテーマは【趣味・余暇】です。

趣味と言えるかはわかりませんが、以前畑仕事をしていた方がとても多く、畑が使えない、または、ないことで暇を持て余してしまっている人がとても多いようです。小さくても土に触れる生活が日常であった方々にとって、土と離れての生活には、物足りなさを感じていることがつぶやきを通して伝わってきます。

○日本舞踊が趣味だったけど、着物もテープも全部流されちゃったの。最近、きれいな浴衣を貰ったけど、ヒモがなくて着れないのよ。残念。陸前高田仮設 80代 女性

○仮設は暑くて窓を全部開けて風を通してている。家も畑も流されちゃったから、畑いじりたくてもいじれない。趣味が無いから困っちゃう。陸前高田仮設 80代 女性

○ネコ 50匹飼ってるんだー 趣味はねえ。いつもぼけーっとしてるんだ。郡山避難所 70代 男性

○趣味はなくて、仕事ばかりしていたんだ。色々な仕事をしていて、楽しかった仕事は特になかったな。いわき避難所 年齢不明 男性

○手芸など、趣味の事がやりたい。糸や布がほしい。気仙沼避難所 60代 女性

○スキーが趣味で、競技の指導員をやっていた。スキーや社交ダンスをしたけれど、辛い思いをしている人のことを考えると、不謹慎だと思ってしまう。気仙沼避難所 60代 女性

○花が好きで以前華道もしていたときあったな。趣味があるっていいな。いわき避難所 年齢不明 女性

○農作業も出来なくて暇だあー。色んな人が来てくれて感謝してるよ。陸前高田仮設 年齢性別不明

○電気代節約してるんだよー。畑とか花いじりとかすることが無くて暇だよ。隣の人見たこと無いんだよー。誰が住んでるか分からないよ。陸前高田市仮設 年齢性別不明

○看護の仕事長くやっていたの。一人ではぼーっとする時間ができる、すぐフラッシュバックしちゃって。そのうちノイローゼになっちゃうんじゃないかってくらい…。だからこういうの足湯はいいわね。私、田んぼをやったり、習い事、先生、色々やってたから、急に一日中暇になっちゃって、ほんとにねー。新聞端から端まで読んじゃったりして。石巻市避難所 60代 女性

週刊つぶやき第9号／買い物に関するつぶやき

ROAD 事務局より◇週刊つぶやき◇第9号をお届けします。今回のテーマは【買い物】です。

仮設住宅への入居が進む中、仮設住宅の立地による不便さがあります。特に慣れない土地での買い物は大変な様子です。

○買い物は移動販売があるし、車で送迎してもらうから。バスは使いづらいのよ。本数も場所もわからないから。陸前高田市仮設 60代 女性

○自動車もなくなってしまったので、買い物は車のある人の乗せてってもらうのよ。週2回くらい買い物に行けるかしら。陸前高田市仮設 80代 女性

○買い物に行き帰ったところ。買い物は大船渡まで行かないと欲しい物が買えないから不便だ。8月上旬に近くにスーパーができるから助かる。陸前高田市仮設 70代 男性

○買い物が近く出ないので不便。カブが流された。今は自転車か娘に連れて行ってもらう。山元町仮設 80代 女性

○車が5台あったけど、5台とも流されちゃった。長男が一台くれたので、買い物は今はそれを使っている。30分かかる。陸前高田市仮設 60代 女性

○バスは本数が少ないし、時間が分からないから使わないよ。陸前高田市仮設 80代 女性

○仮設住宅内にバスが走るようになればいいのに…。大分から届いたうちわとメッセージに涙が出た。お返事をしたいが、はがきを買いに行くのに40分歩かないといけないので遠い。郵便ポストもあればいいのに。亙理町仮設 60代 女性

週刊つづやき第10号／ボランティア・行政職員のつづやき

ROAD事務局より◇週刊つづやき◇第10号をお届けします。今回のテーマは【ボランティア・行政への足湯】です。

今回は、被災者の方ではなく、支援者として避難所や仮設で活動しているボランティアや行政職員などのつづやきをご紹介します。

週刊つづやきでは基本的に直近のものをご紹介しますが、今回は行政やボランティアもたくさん入っていた5月や6月の避難所でのものも多めにご紹介しています。

つづやきからは、なかなか口に出せないであろう支援者の本音も伝わってきます。「支援する人へのケア」も大事な課題です。

また、被災者の中にも、避難所などで積極的にボランティアを行う方がいます。「やることがない」と感じておられる被災者の方たちにとって、誰かのためにできることを積極的にすることが、生活のほりにつながっているのではないのでしょうか。

○北海道の役所の方 1週間いたんですけど明日帰ります。足湯いいもんですねー。気持ちいい。風呂ずっと入ってないんですよ。ここの皆さんは明るく親切でした。自分たちよりここの人の方がずっと大変ですからねー。5月13日石巻市 50代 男性

○徳島の災害派遣職員の方 1週間のスパンで派遣されている。でも何の役にも立ってなくて申し訳ない。役所の方では遺失物管理の仕事を手伝ったりしているけど、自分はここで何も貢献できていないかもしれない。5月13日石巻市 30代 男性

○広域ネットワークの職員で労務の担当だったのですが、避難所 24時間泊まり込みで役所のヘルプをしています。何でもやらないといけません。皆さんどちらからいらしたのですか？肩こっているんですよ。5月13日石巻市 40代 女性

○石巻市臨時職員の方日本全国いろんな県から応援が来てくれるので助かります。避難所いる人けっこう引っ越ししてる。名前覚える前になくなっちゃう人もいます。5月13日石巻市 30代 女性

○江戸川区職員の人 25人で一週間交代で来る。宿はここから一時間。山の方から来るから大変。二日ごとに一回防災センターにお泊り。お風呂も 2,3日に一回で今日は入れないから、助かったよ。気持ちいいね。江戸川区 4000人いて、都内で4番目に職員多い。たくさんいるから、まずはたくさん誘いかけて顔うるんだ。覚えてくれないと相手してくれないから。嫁も子供も、行っといでと送り出してくれたよ。5月21日気仙沼市 40代 男性

○喫茶コーナーでコーヒーなどを出し、避難者の話を聞いている。足湯の水は水道？コーヒーも水道を使っているけど、カルキ臭い。ここに来てからタバコを吸うようになった。コミュニケーション、話を聞くため。一時帰宅の連絡が自分にこない。入れなくなる前に何度か帰った。足湯は3回目くらい。5月21日郡山市 50代 男性

○役所の方徳島から来ました。10日のサイクルで交代で来ている。東北は初めて。他の徳島の市役所の方と高1の男の子と談笑ここの避難所はみんなが温かく迎え入れてくれるのでまた来たいと思っている。ここに泊まらせてもらいたい松島の宿泊先に行ったりしている。5月28日石巻市 30代 男性

○鳥取から支援のため16時間かけて、バスで来ました。24時間体制で避難所に寝泊まりしています。お風呂も2日に1日くらいしか入れない。ここの炊き出しの食事、量が多いでしょう？足湯は初めてで、全身が温かくなってきて眠くなってきた。5月28日石巻市 40代 女性

○いつもここ避難所で人の世話ばかりだから、こういうのやってもらえるのうれしいですよ。子供たちがミサガくれたから、腕につけてるんだよ。最近あったかくなってよかった。6月3日気仙沼市 30代 男性

○近くに住む被災者ボランティア中で引きこもってる人が多いから、各地から来られているボランティアの方々ともっとふれあって欲しいわー。声はかけているんだけど、きっかけがないとなかなか大変よね。6月3日石巻市 年齢不明 女性

○石巻の支援団体スタッフ女川第2小で、絵本の図書館5000冊を作ったんです。よかったら見に行ってください。心のケアに大人の方にも絵本を読んでもらいたいと思っています。6月4日女川 60代 男性

○私は韓国からのボランティアなのにやってもらっていいのか？日本では足湯はいつからあるのか。足湯もなかなかいいですね！6月5日 気仙沼市 50代

○足湯ってやったことはあるけど、自分が入るのは初めてだ。6月5日 気仙沼市 20代 男性

○韓国でホームレス支援のNPOをされている方韓国ではこういう足湯があるが、足もマッサージするよ。ボランティアでやっているのに、こんな足湯やってもらうなんて申し訳ないような。。。6月5日気仙沼市 50代 男性

○いつも区長という立場だからボランティアの人々にあいさつをして回ることが多いから色々大変だよ。最近はまだ減ったけど一時期何人も来て人数把握するのとかいろいろたいへんだったんだよ。ここは小さいけど色々充実してるから感謝してるけどね。6月5日気仙沼市 60代

○教育ボランティアでね。まあ何もやってないんですけどね。今日はキッチンを開いてるんですよ体育館で。コミュニケーションをとるためにね。6月5日石巻市 40代 女性

○東京からボランティアで来たよ。足湯初めてだけど気持ちいいですね。マッサージの仕事をした後だから、特にいいですね。6月15日 石巻市 20代 男性

○ボランティアなんだけどねーありがとうございます。気仙沼の、ちょっと高台の方に家があってね、無事だった。やることないんでねー。1,2ヶ月は、避難所の面倒見てただけだね。えらいですね、東京から、学生さん。ありがとうございます。6月26日気仙沼市 70代 男性

○介護ボランティアの方これ見た目より気持ちいいね～。7月8日 気仙沼市 30代 男性

○避難しながら、Bホールの喫茶ボランティアしてんだ。今日アロママッサージの人来てて気持ちいいんだ。雨は嫌でね。地震で屋根が崩れて雨漏りするようになってちゃって。雨が降るたび、今日も雨漏りしてるのかと思ってるんだよ。アパート借りてね。もうすぐビッグパレットから出ていくんだ。7月9日郡山市 年齢不明 女性

○「こういうボランティアに来るタイミングって難しいですね」という私にでも僕来てわかったのは、好きなタイミングで行った方がいいなって。行きたくても行けない時が多すぎる。職場からこういうボランティアに送っていただけのありがたい。7月15日気仙沼市 30代 男性

週刊つぶやき第11号／20代・30代のつぶやき

ROAD事務局より◇週刊つぶやき◇第11号をお届けします。今回のテーマは【20代・30代】です。

足湯に訪れる方は高齢の方が多いのですが、時々20代・30代の若い方たちも来られます。そのつぶやきからは、仕事・子育てなど、独自の体験や悩みが伝わってきます。

また、ボランティアも20代・30代の方が多いので、同じ世代だからこそ話せること、話したくないことがあるのかもしれない。



○名前は内緒。今は仮設住宅のアルバイトをしていて、日焼けがすごい。娘が 2 人いるんだ。この震災でみんながバラバラになってしまったことがとても辛い。近くにいれば安心するけど・・・。

7月2日 郡山・避難所 30代 男性

○こうゆう場所を作ってくださいと、ご近所の方と話せるきっかけになってうれしいのよ。1人になると、やっぱりこれからどうしようって思うからね。お花も全部流されたけどガレキの中から咲いた花を見つけた。今度、それを近所の人に植木鉢をもらってまた育てる。

7月4日 陸前高田・仮設 20代 女性

○施設の厨房で働いている。今朝、足湯のチラシが入っていたから、仕事終わってから間に合うかなあと考えてきてみました。東京から嫁いできたから、実家に帰ろうかと思ったけど、仕事もあったから……。人もいないし、電気もないし、ガソリンもなかったから、ずっと泊まり込みで帰れなかった。でも、人のありがたさがわかってよかったですけどね。今も、あんまり休めてないですね、そういえば……。20 なんにち間とか休んでないこともあるの。

7月31日 気仙沼・仮設 30代 女性

○被災した田んぼの仕事行きたいけど、子どもが嫌がっていけないの。昨日も話し合いしたけど、ダメだって…。

8月22日 岩沼・仮設 30代 女性

○アパレル系ショップの T シャツが送られてくるが、かわいくていい。大人用・小人用いろいろあって、みんな着ている。仮設は隣がすごく近いから、子ども同士がよく遊んでいる。

8月23日 岩沼・仮設 30代 女性

○なぜボランティアに来るのかわからない。会社休んできたんでしょ？この辺りは福島隣の隣だから、放射能が一時高かったけど大丈夫かい？

8月15日 山元・仮設 30代 男性

○夫は植木職。今は浜の家々がなくなってしまったので、仕事が少し減った。震災後、東京や京都の造園の青年部が重機を送ってくれたので助かった。家を失ってしまったが、一家全員無事だったのが幸いだった。津波が来た時、

逃げ遅れて栗の木に子どもを押し上げ、自分もその気に登って助かった。地震があっても油断していた。

8月16日 山元・仮設 30代 女性

○足りないものはないよ。シーツとか替えがあればいいけど、置き場がないからね。私は仙台の方で働いてるの。私仕事で体をほぐしてるから、少しやってあげるよ。

8月16日 山元・仮設 30代 女性

○家はねえ、津波で流されてはないけど、1階はつかったよね。だから、2階に無事な物はすべて移してあるんだけど、車が故障したから、持ってこられないんだよね。今、車は修理に出してる。車ないと、運転もできなから何もできないね。スーパーにも役場にも何をやるにも必要だから。また来ますね。

8月16日 山元・仮設 20代 女性

○ちょうど早産の危険性があったから、入院してて帰ったばかりに地震があったからすごくこわかった。一人だったから。お腹大きいから韓国ドラマ見てたら、すごい揺れ始めるし、携帯鳴るし。車押さえながら携帯で旦那に電話してすぐ帰ってきてって言って。やっぱり放射能が怖い。自分はいんだけど、赤ちゃんはね。実家は海に近くて流されちゃったから、赤ちゃん用品全部なくなっちゃったから、買い直さないといけなかった。みんなスーパーで私が私がだった。ミルクも 3 つまで。産まれたときも電気が通ったばかりだったから本当に良かった。医者はやっぱたのもしかったしすごいなって。

8月22日 山元・仮設 20代 女性

週刊つぶやき第 12 号／子どものつぶやき

ROAD 事務局より◇週刊つぶやき◇第 12 号をお届けします。今回のテーマは【子ども】です。

夏休みということもあって、7月～8月にかけてはたくさんの子どもの足湯を受けに来てくれました。子ども達が足湯に集まり始めると、場がぐっと和みます。

一方で、子どもにとっても震災の傷は深く、ふと漏れる言葉からは、大人と同様厳しい生活を送っていることが垣間見えるものもあります。

○海水浴行こうと思ってたら津波来た。うちのおばあちゃんちは、海がここにあったらここなんだよ非常にちかい、という説明。保育園にいて、暗くなって小学校に避難したんだよ。次の日お父さんが迎えにきてくれた。**ああ、気持ちいい。なんか中指疲れてる。**

7月31日 気仙沼・仮設 小学生 男子

○仮設の中はさわぐと怒られるんだ。お兄ちゃんが二人いて、一人の方とよくけんかするんだ。夏休みの宿題自由研究あるけど、なにしようかな。

7月31日 気仙沼・仮設 小学生 男子

○プールは放射能の関係で入れなくなった。冷たい水に入りたい。足湯もお湯じゃなくて氷水がいいなあ。氷入れてよ。将来は漫画家になりたいの。絵をかくのが大好き。

8月15日 山元・仮設 小学生 女子

○お母さん今日働いてる。お金が欲しいなあ。17、18日にディズニーランドに行くんだ。**夜寝れない。**

8月15日 山元・仮設 小学生 女子

○サッカーやってるんだよ。でも、今休みだから、全然やってない。**友達もみんなどっか行っちゃった。**

8月15日 山元・仮設 小学生 男子

○ここに来てから、足をいっぱい虫に刺されちゃった。かゆいかゆい。小学校では算数が好き。宿題がいっぱい。**学校にはちゃんと通えてるよ。**

8月15日 山元・仮設 小学生 女子

○剣道やってるんだ。面はここをあてて、こてはここにあてる。お父さん消防士もおじいちゃんも剣道やってる。お父さんは5段。でもお父さんは津波以来練習できなくて、僕も週3だったのが週1しか道場に行けない。仲間は6人から3人に減った。**将来は消防士か自衛隊がいい。**

8月16日 山元・仮設 小学生 男子

○俺は帰らないよ。**帰っても誰もいないから。**じいちゃんは買い物行って帰ってこないから、だから足湯やる。

8月16日 山元・仮設 小学生 男子

○あのおじいちゃん知ってる？クリーニング屋さんだったんだよ。**津波でお店流されちゃったんだって。**○○ん家の近くだったから知ってるんだ。○○ん家も流されたの。

8月16日 山元・仮設 幼児 女子

○おれら津波に流されちゃったんだよ。**めっちゃ怖かった。**

8月17日 山元・仮設 小学生 男子

○好きな子はもういないよ。だって流されちゃったんだもん。だから、**まだ好きな子はできない。**

8月17日 山元・仮設 小学生 男子

○夏休みはもうおしまい。**大震災があったから、勉強をしなくちゃいけないから、もう終わりなの。**でも、勉強がお休みになって嬉しい。もっと足水足湯してほしい。またくるね。もっとかわいい靴下があるとうれしいな。

8月17日 陸前高田・仮設 小学生 女子

○みゆきね、地震の時、嫌いだったの。みゆきは自転車から転んで落ちてけがしたけど、お母さんは腕を骨折して入院しないといけなかったの。みゆき、ケーキ屋さんになってみんなにケーキを作るの。みゆき、学校には行ったら髪伸ばすんだ。

8月18日 山元・仮設 幼児 女子

○きつもちいい〜。宿題まだ半分しかやってない。

8月21日 岩沼・仮設 小学生 男子

○兵庫から引っ越してきた。方言にも慣れた。5人兄弟。**津波で大きいタンクが流れてきた。**おじさんがそれに気づかず、津波の方へ自転車をこいで行った。

8月22日 岩沼・仮設 中学生 女子

○どこからきたの？別の仮設でもやるの？福島から来た人たちが入っている仮設があると、だれかから聞いたことがある。今年の春にディズニーランドへ行くことになっていたけど、**震災があったので行けなくなってしまったの。**

8月22日 岩沼・仮設 小学生 女子

週刊つぶやき第 13 号／生と死に関するつぶやき

ROAD 事務局より◇週刊つぶやき◇第 13 号をお届けします。今回のテーマは【生と死】です。

これまで震災直後から足湯ボランティアを派遣し続けてきましたが、震災当日の経験を語る方、身近な方の死について語る方が途絶えたことはありません。

「震災から半年」という区切りがマスコミ始め大きく取り上げられましたが、「生と死」にまつわる経験は、どれだけ時間が経とうとも決して薄らぐことはないのでしょうか。被災地の外で日常を過ごす支援者も、こうした事実を忘れることなく、被災者一人ひとりの声に耳を傾け続けていく必要があるのではないのでしょうか。

また、「生と死」に関する重い経験をされた方たちに特に関わっておられる、カウンセラーや精神科医などの専門家の知見にも敏感になる必要があるかもしれません。

○4 年前に夫を亡くして、やっと立ち直ったところだった。夫と一緒に築いたものが全て流されてしまった。夫の位牌だけは持って逃げたけれど、写真は見つからない。家族は、皆無事だったから良かった。何か持っていたも、いつなくなるか分からないから、命さえあれば何もいらんないんだ。

8月8日 山元・仮設 60代 女性

○写真がね一枚も見つからないのよ。さびしいね…津波で何もかも流されたよ。水の泡ってこういうことを言うんだね。何でも話せる友達が死んじゃってね…さびしいな…足湯がおわるのはなごりおしいね。顔覚えてるからまた来てね。

8月10日 山元・仮設 70代 女性

○昨日、川内村に一時帰宅したんだ。猫に餌をあげに行ったんだと、共食いして一匹死んでたさ。原発の状況がわからない牛や猫は人間よりもっとかわいそうだな。

8月19日 郡山・避難所 80代 女性

○津波が来たとき、何もかも流されてしまった。人が 3 人流されたのを見た。すごく怖かったよ。

8月19日 気仙沼・仮設 70代 女性

○去年、犬の散歩中、車に引かれて、犬が犠牲になって、俺が助かった。今度は、息子が犠牲になって流され、俺が生き残った。孫、残して死んじゃった。胸のここがポッカー空いたよう。寂しいね。この間、ボランティアで来た人が、息子にソックリで、後姿がそっくりで、息子が帰って来たようでビックリした。

8月26日 気仙沼・仮設 70代 男性

○震災の日は、たまたま登米の花屋にいた。すぐに家に戻ろうと思ったが渋滞で手間取っているうちに津波が来た。戻っていたらダメだったと思う。これからのことを考えると、気がおかしくなりそう。何から手をつけていいか分からない。すべてなくなってしまった。

8月26日 気仙沼・仮設 50代 女性

○大正生まれ。1 人息子を津波で亡くした。自分は病院にいて助かった。とても辛いけど、近所の人はずっとたくさん亡くしているのだから辛いとは言えない。

8月30日 山元・仮設 80代 女性

○だんながさ、仮設で死んだのよ、一ヶ月前にねー、津波のアレ心のストレスもあると思うね。病気で死んだんだけど、うん、私は大丈夫よ。

8月31日 山元・仮設 70代 女性

○家も店も大丈夫だったんだけど、まわりは逃げ遅れて 10 人以上も亡くなったね。津波が来るのが見えただよ。車で逃げようかと思ったんだけど間に合わないと思って急いでみんなで 2 階に逃げて。そしたら助かったんだよね。

9月1日 山元・仮設 60代 男性

○孫は幼稚園。津波を実際に見てないからまだいいが、仮設に来た時も「ここは津波ないの？」と聞いてきたり、「お家を建てる時は地震でも壊れない家を作る」と言ったり、積み木遊びの時もこわれないようにしてる。津波に飲まれちゃった子なんかは絵を描くと海の中に黒い人死体がいっぱいいるようなものを書いてたりしてるみたい。

9月2日 山元・仮設 50代 女性

○津波で先祖の墓が流されちゃったからねえ。ご先祖に申し訳ないねえ。

9月2日 山元・仮設 60代 女性

○お父さん夫がね、津波で死んだの。だからねー、なかなか寝れないね、10 時ごろに寝るんだけど、夜中に何回も起きちゃって。

9月2日 山元・仮設 70代 女性

○津波が来ても何も思わなかったなあ。葬儀とかいったって、涙は出てこねえもんだ。後になってから分かって来るけどね。私なんかは波見て逃げたから、おっかねえもんだ。

9月2日 山元・仮設 70代 女性

○1人になると寂しい。友人夫婦みな亡くなってしまっただね。皆いないんだよ。この地で笑うことはあるけれど、ふとした瞬間に思い出してしまうんだ。おっかないよ。

9月6日 陸前高田・仮設 80代 女性

○海のおすぐ近くに住んでいた。いろいろと持って逃げようと2,3回戻りかけたが、そのまま逃げた。あの時戻っていたら死んでいたと思う。海から離れた家の人、けっこう亡くなっている。まさかこんなところまで津波が来ないだろうと思うようなところに住んでいた人が、多く流された。弟がまだ見つかっていない。弟の奥さんは亡くなってしまった。本人を確認するまではあきらめきれない。

9月6日 陸前高田・仮設 80代 女性

週刊つづやき第14号／心身の不調に関するつづやき

ROAD事務局より◇週刊つづやき◇第14号をお届けします。今回のテーマは【心身の不調】です。

前回に続き重たいテーマとなりますが、医療体制も十分でない中、健康の問題が被災者お一人おひとりにとって大きな課題となっています。

特に、精神的ストレスが体に出る、身体の不調で家にひきこもりがちになるなど、心と身体の不調がからみありながら、重くのしかかっていることが感じられるつづやきも多くあります。

また、ここでご紹介するものは、仮設の集会所などでの足湯の場に出て来られた方のつづやきであり、そういった場にも出て来られない方たちのことにはいかに気を配っていけるかどうか今後の課題です。

○前から病院行って薬もらってたんだけど、薬やめたらよく寝られなくなっちゃった。今は月2で、車がこわれたからタクシーで病院通ってるの。近くないから中々行けなくて。

8月8日 岩沼・仮設 70代 女性

○妻に聞いて来た。午前中は仕事があったからお昼は食べてきた。みんな仮設に入って体がボロボロだから。

8月9日 岩沼・仮設 70代 男性

○震災でこんなにしわになってしまっただね。避難所の時はもつとで。津波で主人を亡くしたしね。一日仮設にいとたまらなくなって夜も眠れないし。そういう時は散歩をするようにしているの。夕方ね。今でも熟睡してないのよ。いつも4時半にめがさめるの

8月9日 山元・仮設 80代 女性

○右のふくらはぎが痛くて、看護婦さんに湿布を貼ってもらったところ。右の肩も痛きとストレスだと思う。ストレスは地震かな。落ち着いた頃にまた揺れるから。仕事はゴミの整理。皆で協力して生活しなくては。最初は眠れなかったが、最近をよく眠れるようになった。お風呂や熱い湯のおかげと思う。

8月13日 郡山・避難所 60代 男性

○左手のリウマチがひどくて農作業ができないことがつらい。マッサージの後にはリウマチの痛みが減ってよかった。

8月27日 郡山・避難所 70代 女性

○こうやって話を聞いてもらえると、すごく楽になる。一人だとおかしくなってしまうので、自分なんて命が助かっているのに弱いなあと思うの。いつもボランティアさんに話を聞いてもらってるのよ。

8月27日 気仙沼・仮設 60代 女性

○津波の後から、体調が悪い。元気が出ない。海の仕事アワビなどの養殖を毎日していたときは、元気だったのに。津波で全てが流された。

8月29日 陸前高田・仮設 70代 男性

○自律神経を患っているから、足湯がいいって聞いてきた。子供が2人いるからゆっくりお風呂にも入れない。また来ます。

8月29日 山元・仮設 30代 女性

○心臓が悪くなると体のあちこちがダメになる。30分運転してるだけで目がかすむようになった。今は家でテレビみでゴロゴロしてる。

8月30日 陸前高田・仮設 70代 男性

○中2の孫が避難所暮らしで10kg体重が減った。高熱が出たり子供なりに仮設住宅で気を使っているようだ。

8月30日 陸前高田・仮設 60代 女性

○仮設に入ったらめまいはするわで、お医者さんはやっぱり疲れとストレスって。最近全身がかゆくてね。お薬はもらってるけどひかないのよ。

8月30日 山元・仮設 70代 女性

○津波のとき、車で逃げたけど間に合わず車で流された。引き潮で流れていたところまで記憶があるけど、その後は覚えていない。胸まで海水に浸かった。気がついて車のドアが開いたから、胸まで浸かったまま逃げ出した。今でもその場所の近くに行くと気分が悪くなるから行きたくない。避難所では受付をした。じっとしてるより、人と話をした方が気がまぎれる。

8月31日 山元・仮設 60代 女性

○高血圧と高脂血漿で関節の節々が痛い。朝散歩とか努力しているけど・・・。仕事が無いのがつらいね。

9月5日 陸前高田・仮設 60代 女性

○夜眠れないんだよ。やっぱり津波がね。あとね、足がつってんだよ。夜寝てるとビーンってね。痛くてね。安定剤のんでるけど、今は四分の一になったけど。病院の先生は「何でもない」っていつてる。

9月5日 陸前高田・仮設 70代 女性

○津波以来、ずっと体調悪いの。

9月7日 陸前高田・仮設 70代 女性

週刊つぶやき第15号／冬に向けてのつぶやき

ROAD事務局より◇週刊つぶやき◇第15号をお届けします。今回のテーマは【冬に向けて】です。

ここ1週間ほどでぐっと冷え込み、特に被災地東北では冬に向けての対策が直近の課題となっています。これまでに集まったつぶやきではまだそれは

ど顕著には表れていませんが、今後こうした話題がぐっと増えることが予想されます。

また、支援する側にとっても、拠点の整備含め対策を施す必要が出てきています。既に挙がっている問題や先進的な取り組みなど、冬に向けての対策に関する情報をご存知の方は、ぜひ声をお寄せください。

○3・11は寒かった。雪が降って、せっかく逃げたのに寒さはだめなんじゃないかと思った。みんな掴まるどころのない坂を登った。お風呂が狭くて、ゆっくりできない。追い焚きできないから、冬が心配。

8月1日 陸前高田・仮設 60代 女性

○魚よりこっちがいい。今は1人で住んでる。お風呂が好きで、1人で長湯する。あの日は寒かった。今年の冬は初めてだから、寒いかなえ。

8月3日 陸前高田・仮設 60代 女性

○体育館で体操してきて、楽しかった。運動不足になるから今日はたくさん運動して足湯につかってよかった。夏服はいっぱいあるんだけど冬服がないんだよね。

8月8日 岩沼・仮設 60代 女性

○今日はいい天気いいよ。この辺りの天気はこんなものでだいたいがからっとしている。冬は雪が降り、道路は凍結する。この辺りは西風の通り道なので、それが「西風ならい道」という地名の由来と言われている。

8月29日 陸前高田・仮設 70代 男性

○一人暮らしだから、なにも話すことないし、すぐ忘れてしまうんよ。何も思い出せないし、でも知っている人がいるから。腕を骨折したけど今は大丈夫。冬は痛むんよ。

8月30日 陸前高田・仮設 80代 女性

○団地のお風呂は追い焚きができないから冬になると困るねえ。

8月31日 山元・仮設 60代 女性

○孫がいてもうすぐ帰ってくるんよ。本当にやんちゃで。。。孫に宿題しろって言うんだけどいう事聞かないんだよ。サロンが冬無くなると思うと心配。足湯はたくさん来てるよ。

9月5日 陸前高田・仮設 70代 女性

○もう冬だね、東北の冬は厳しいからね、仮設で冬を越すのは不安。2年かあ……。歩くとね、びしびしいうのよ。笑っていないとねダメだよ「。じめじめしててもね、しょうがないよ。乗ってくれるとね、楽しくてどんどん話ははずむのよ。楽しいよね。だから、笑ってね。

9月5日 陸前高田・仮設 70代 女性

○富岡に住んでいたんだよ～。ビッグパレットと、矢吹のホテルにもいたんだ。7月30日にここに来たんだ。富岡と比べると住みづらいねえ。夏は暑いし、冬は雪が降るみたいだしね。こういうところに来て、若い人と話すのもいいね。男性はなかなか話しにくいけど、女性だったらいろいろ話せるからねえ～。今日はイベントやってたんだね。広告もらったかもしれないけど、忘れてたよ。

9月1日 郡山・仮設 70代 女性

○地形の関係で日が当たらない場所、夏は涼しくすごしやすかったけど、冬が寒そうで心配。不便な場所だね、近くに店がないし、買い物は車で気仙沼まで行ってるよ。移動販売者も来るけど高いから魚しか買ってないよ。

9月13日 陸前高田・仮設 70代 女性

○震災の時6ヶ月の時だったですけど、逃げなきゃ！逃げなきゃ流される！って走った。あ、走れるんだって思った。母乳で育ててるんですけど、出ています。着る物とか貰うんですけど、入れるところがなくて。引き出し一杯で聞けるのも大変。冬になったらどうしよう。

9月13日 陸前高田・仮設 20代 女性

○今日は朝から家で休んでいた。MAIYAがすぐ近くにあるので便利。暖房はエアコンがついているが、あんなもの使っていたら電気代が高くなる。

9月14日 陸前高田・仮設 70代 男性

○今日は寒かったなあ。最近朝起きるのが辛くて。ビッグパレットに居た時は、コンクリートの上で寝かされていたから、腰が痛くて痛くて。でも仮設に来てからは、布団も貰ったから大丈夫。週に1回野菜売りに来るから助かってんだ。

9月25日 郡山・仮設 60代 女性

週刊つぶやき第16号／ペットに関するつぶやき

ROAD事務局より◇週刊つぶやき◇第16号をお届けします。今回のテーマは【ペット】です。

つぶやきの中には、ペットに関するものも数多くあります。家族の一員のように感じている方や、ペットの散歩があるからなんとか外に出るきっかけになっているという方もいます。

一方では、津波や原発によって大切なペットと別れざるをえなかったという話も聞かれます。仮設でペットに関するトラブルもあるようなので、何かしら関連する情報がありましたらぜひお寄せください。

○地震で家はほとんど被害がなくてね。でもその後の津波がすごくて、犬をつかんで2階のリビングににげただけで、首まで真っ黒な水につかって家ごと流された。片手で犬を「はなすまいっ」とつかんで、もう片方で「流されまいっ」と窓のサッシをつかんでいたの。この傷跡はその時のもの。気がついたら家が上下ひっくり返っていたわ。翌朝夜が明ける頃、隣のおばあさんを探しに来た人に助けられたの。

8月9日 山元・仮設 60代 女性

○津波が来たときには家族三人で2階に逃げたの。すぐそこに来るまで気がつかなくてね……。2階と1階が分断されて、3人で洗濯機みたいにぐるぐるされて……。助かってほんとよかったよ。次の日に助けられて寒かった……。もう話したくないんだけどね。犬もつれがしっかりつかんで。ポメラニアンなんだけどね。かわいいの。だから夫婦喧嘩もないのよ。

8月10日 山元・仮設 60代 男性

○息子のマンションに避難していたが、散歩する場所もなく息がつまり帰ってきた。息子夫婦に良くされればされるほど居場所がなくなる感じがしてつらかった。仮設に入ること、お嫁さんに猛反対されたけど、私は犬を飼っているの、ひどいアトピーもちの孫が大変だからやっぱり居られない。こういう状況下では長屋生活も良いのかもしれない。お茶飲みもできるしね。

8月11日 山元・仮設 70代 女性

○富岡町から来たんだ。猪を飼っているんだけど連れてこれないからおいて来た。何度か餌をやり富岡町に戻ったんだけど飼い猫や飼い犬がたくさん放し飼いにされていた。動物はみんな弱ってて餌が食べられないんだよ。飼い犬や猫を保健所に預ける人がたくさんいて、保健所のケージはもういっぱいいっぱいみたいだ。

8月27日 郡山・避難所 60代 男性

○ここに来てからやせちゃった。畑ばかりしてたからこんな足になっちゃった。みかん、びわ、何でも作ったのに放射能のせいで全部出荷できなくなった。今年はみかんが収穫できる年だったのに。犬、ねこを飼っているけど、ボランティアの方や獣医さんに預かってもらえているから安心。

8月27日 郡山・避難所 70代 女性

○逃げてきたのは仕方ないけど、残した猫に未練があるね。白いからチロチロって呼んでたの。だんなは震災前に病院にいたんだけど、震災後違う病院に移るってなった時に、カルテが移されなくてね、亡くなっちゃった。

8月28日 郡山・仮設 70代 女性

○日大のボランティアを見てあの人らに大変お世話になった。引っ越しの時も役所の人に秘密で荷物を全て運んでくれて助かった。家の方にネコとイヌを置いてきた。仮設が暑くて、ペットと一緒にだとクーラーを一日中つけないといけなから連れて来られないね。主人はペットと一緒に居たいと言うけど、あれこれ理由を付けて説得しているよ。

8月29日 郡山・避難所 70代 女性

○犬、猫を一匹ずつ飼ってる。猫がうるさいって隣の人から言われる。動物のことだから仕方ないのに・・・。

8月31日 山元・仮設 70代 女性

○犬2匹と猫4匹いたの。で、猫は全部ダメで、犬1匹中で飼ってたのは死んで、もう1匹は外にいたから、鎖はずして、そしたら津波来て山の方に逃げたんだね・・・。

9月1日 山元・仮設 50代 女性

○避難所にいるときに、一緒に避難所にいられないから飼犬を奪われたおばあちゃんがだんだんとボケていくのを見た。あの時は眠れなくて、6kgも痩せたの。今はやっと戻って、お化粧する気にもなったわ。

9月2日 山元・仮設 70代 女性

○日中は、犬の散歩とかをして過ごしているの。今は主人がその辺散歩してるよ。本当は娘が飼っていたんだけど、東京に行っちゃったから、私たちが引き取ったの。体育館に避難している時は、車の中で飼ってて大変だったけど、ここではずっと一緒にいれるからよかった。名前は「ショコラ」っていうミニチュアなの。

9月11日 三春町・仮設 70代 女性

○富岡にいた頃は農家をしていて、花や野菜を市場に出してたの。今は何も作る気にならないね。飼ってたチャボやホロホロ鳥、キジなんかみんな死んじゃって、本当に悔しくてね。結婚50年で金婚式だったけど、本当なら父さんとどこか行くんだろうけど、それもしなかったの・・・。

9月11日 三春町・仮設 70代 女性

○犬を飼っていて毎日一緒に散歩しているの。犬の名前はかえでという名前で姪がつけてくれたの。犬がいないと散歩しなくなるから、いてくれてとてもありがたい。家にもテレビを見るしかない。富岡にいたころは踊りやカラオケやダンスをしていた。

9月17日 郡山・仮設 60代 女性

○妻と犬と一緒に住んでいる。避難所では犬は室内に閉じ込められてかわいそうだったが、この仮設では一緒に住めて、毎日3回散歩をしている。うちのワンちゃんは行儀が良いから周りに迷惑をかけていない。

9月23日 石巻・仮設 60代 男性

○毎日犬の散歩をしている。被災したときは仮設所に犬を連れていかれなかったの、息子が犬と共に車で寝泊まりしていた。集会室でいつも何かやっていて、人がいれば担当の人もっと集まれるのに。

9月24日 石巻・仮設 60代 女性

週刊つづやき第17号／孤独・孤立に関するつづやき

ROAD事務局より◇週刊つづやき◇第17号をお届けします。今回のテーマは【孤独・孤立】です。

仮設住宅での孤独死を防ぐためにも、孤独・孤立に関するつづやきには耳を澄ます必要があります。

一人暮らしで話し相手のいない人、家族と住んでいても仮設住宅内でなじみず精神的孤立感を感じている人、様々な孤独・孤立に支援者はいかにかわっていきけるのでしょうか。

○いつもひとりぼっちで孤独だ。足湯は、気持ちいいなあー。

8月22日 岩沼・仮設 70代 男性

○先月、肺炎で旦那がなくなった。仙台の息子の家に身を寄せていたがそれが悪かった。今は一人ぼっちだ。

8月30日 山元・仮設 70代 女性

○震災のせいで、孫と離れ離れになっちゃったの。さびしいのよ。

8月30日 陸前高田・仮設 70代 女性

○自分は横山区から、一人で、この仮設に来たから一人ぼっちだ。ほとんど牛橋区の人たちだから知らない。

8月31日 山元・仮設 60代 女性

○津波のことを思い出して泣くことが最近多い。仮設住宅に来てから足腰が弱くなってぎっくり腰になっちゃった。不便な場所にある仮設住宅だから家に引きこもってばかり。仮設住宅は結露がひどい、カーテンがあと少し長ければいいのに。

9月9日 気仙沼・仮設 60代 女性

○富岡から来たんだけど、周りに知り合いがいないの。あの小さい女の子は、私じゃなくて隣に住んでる妹の娘なの。いつもみんなに間違われて大変なのよ。本当なついちゃって・・・。

9月11日 三春町・仮設 40代 女性

○また来てくれてうれしいよう。ROADさんだけよ、3回も来てくれたの。誰か来てくれると、その時だけでも明るくなるもの。ほら、笑い声だってあるでしょう。こんな小さい所行かないと、はり合いないでしょう、目立たないし。私は昼間いるから、こうやってしてもらえりゃとせ、おつとめの人は何も無いものね。ここはおつとめの人半分位男の人、1人だけの人も多いのよ。

9月12日 陸前高田・仮設 60代 女性

○最近なんだか疲れちゃってねえ。気持ちいいね。避難所は2回移動したの。何から何まで1人でしなくちゃいけないから。

9月24日 気仙沼・仮設 70代 女性

○1日やること9時には終わっちゃって、テレビを見るしかなくて。毎日なんか震災のことやってるからつい見ちゃうけど。嫁には見ない方がいいんじゃないの、って言われるんだけど。この仮設は知らない人ばかりでなんかね。

震災直後より今の方が、またいろいろ思うね・・・。足湯気持ち良かった。ありがとうね。

9月24日 石巻・仮設 60代 女性

○私は仮設ではないんですけど、娘が来るのですみません。ボランティアの方には本当にお世話になって有難いです。私も月に一回ボランティアしてますけど、話し相手のいない一人暮らしの方々もたくさんいるから、こういうところ足湯に来て話すしかないのよね。

9月25日 石巻・仮設 60代 女性

○震災から1ヶ月半程してから、仙台や被害の無かった地域の友達からもう普通の生活に戻ったでしょと誘われたりしたが、全く感覚が違うので、もうメールも電話もしなくなった。

10月16日 亘理・仮設 30代 女性

週刊つぶやき第18号／ボランティアに関するつぶやき

ROAD事務局より◇週刊つぶやき◇第18号をお届けします。今回のテーマは【ボランティア】です。

足湯ボランティアのことだけでなく、被災した当初に駆けつけたボランティアへの感謝の思いなど、ボランティアに関するつぶやきは数多くあります。

感謝の声にただ甘えているわけにはいきませんが、そのつぶやきの多くが肯定的なものですし、特に東北の高齢の方たちは、ボランティアが見返りなしで様々な手伝いをしてくれることについて、驚きと感謝を持って受け止められている場合が多いように思います。

息の長い支援の求められる今回の震災では、一人ひとりに向き合い続けるためにも、ボランティアの継続的な関わりが不可欠になります。

ボランティアが現場で直面している課題、ボランティアを継続して派遣することの困難など、皆さまの声をぜひお寄せください。

○若い人が遠くからたくさん来てくれて、本当にありがたい。ボランティアの皆が頑張っているから、私と話しをして笑顔になってくれるとうれしい。

9月5日 陸前高田・仮設 50代 女性

○避難所にいた頃だけお風呂と一緒に入るといふボランティアがいたの。私はこのごろ調子が良くて、お風呂にも入っていなかったけれど、ボランティアさんに促されて久しぶりにお風呂に入れて気持ちよかった。

9月9日 気仙沼・仮設 80代 女性

○足湯は3度目。1度目は避難所、2度目はここに来てから。最初はボランティアさんよく来てたけど、最近減ったわね。プライベートが仮設に来てできたのは良かったけど距離が近いからやはりいろいろと気をつかう。

9月13日 陸前高田・仮設 40代 女性

○東京のボランティアの人がね、家から濡れたものを出してくれたり、足りないもの布団やタオルケットを買ってきてくれて助かりました。お礼を言えなかったから伝えてください。

9月24日 石巻・仮設 80代 女性

○みなさんどこから、どうゆうことで来てるの？ボランティアは今回の震災があって、そのために来始めたの？ボクが反対の立場でボランティア出来ないよ。ありがたいよ。孫が生まれて前の家は広くて暖まるのにも時間がかかったけど、仮設は狭いので風呂から出てすぐ寝かされるから、それはいいよ。その点はね。

10月10日 陸前高田・仮設 50代 男性

○明日から仕事がある。ボランティアのおかげで元気がでる。ありがとうございます。

10月10日 陸前高田・仮設 60代 女性

○家がなくなっちはじめて家のありがたさがわかるよね。仮設は手足のばしでのんびりはできないから。子供がいるしね。たまにはパパの肩もみしてくれませんか？笑キックとパンチしか来ないよー。再起しないわけにはいかないしね。こうなると、関西で地震があった時もボランティアに行くべきだったと思うよ。色々勉強になった。ボランティアはありがたいよ。

10月10日 陸前高田・仮設 30代 男性

○ボランティアの人たちがいなかったら今ここはどうなってることだか。本当に感謝してる。もしどこかで何か起きたら自分ではできるかわからない。ここは校庭にするために片付けたからずいぶん進んだように見えるけど、ここだけなんだ。

10月10日 陸前高田・仮設 50代 女性

○小学校が近くにあるんだけど、あそこにはよくボランティアが来るのに、こっちはあんまり来ないみたい。足湯は三回目だけど、この前は男の学生さんがたくさんいたわ。

10月11日 陸前高田・仮設 70代 女性

○ストレスで足腰が悪いんだよ、津波の前からこんなボランティアの人に助けられて、ありがたいわ。でも、お礼を返すことができないよ。こんな年寄りじゃあ。若い人ならまだ返していくことができるけど。

10月18日 陸前高田・仮設 70代 女性

○津波でみんな流されたけど、こうやってボランティアさんが来て本当に有難いです。足湯が来てくれて本当に嬉しいの。

10月18日 陸前高田・仮設 80代 女性

週刊つぶやき第19号／手に関するつぶやき

ROAD 事務局より◇週刊つぶやき◇第19号をお届けします。今回のテーマは【手】です。

足湯では、ただ話を聴くのではなく、お湯に足をつけて身体を温め、直接手に触れてもみほぐしをしながら、その中でこぼれる言葉を聴き取ることを大切にしています。

足湯の中での「つぶやき」に特徴的なものとして、触れ合っている「手」に関するつぶやきが多いことが挙げられます。特に、手から始まり、畑仕事、漁、洋裁といった仕事・労働の話へ発展することが多いようです。

こうしたつぶやきから、東北の被災地の方々の歴史と生活に思いを馳せることも、大切なことではないでしょうか。

○息子孫に手をやってもらえとは嬉しいな。きれいな手ですねあら、嬉しい。手相を見て頂戴。こんなばっばの手もんでごめんねー。待ってるからまた来てね。

9月4日 郡山・仮設 年代不明 女性

○片手を摩り終わった後で手が軽くなったわあ。冬でも温かい手してんだけど、朝起きると強張っているから自分で動かすんだけど、**やってもらったら手が軽くなった。**

9月5日 陸前高田・仮設 60代 女性

○手は親からもらったもの。大きいのも黒いのも前は嫌だったが、今は親に感謝している。**この手と足で津波から逃げられた。**

9月5日 陸前高田・仮設 80代 女性

○こんなに固い手をしてる人いないでしょ？畑仕事をずっとやってきたからね。骨が固くなってるのよ。

9月5日 陸前高田・仮設 70代 女性

○手がかいでしょ。55才まで事務方だったんだけどね。その後、農家やって、浜にも行ったよ。浜はホタテの養殖。ホヤやカキもあったけどみんな流されて。ホタテの養殖はだんだんうまくいなくなって半分ぐらい死んじゃうんだよね。温暖化のせいだと思う。全部きれいに流されて、やり方変える！って事だよ。

9月13日 陸前高田・仮設 60代 男性

○いつの間にか指が曲がってしまたんだけ右手、薬指。角材が落ちてきて曲がってしまった。

9月13日 陸前高田・仮設 60代 男性

○いっぱい仕事した手でしょう。きれいな手でうらやまし。股関節が悪いし、下半身が冷える。台風ときは避難して、明け方3時に帰ってきた。足湯をやると知って、指折り数えて楽しみにしていた。近所に誰が住んでいるか、よくわからない。

9月24日 気仙沼・仮設 60代 女性

○指がこんなに曲がってね、悪いわけじゃないけど。和菓子作りを若い時からやってたからね。店流されたけど、またやろうと思ってね。四国からまともどってきたんよ四国の高松の娘さんの所に一時身を寄せていたから。

10月10日 陸前高田・仮設 80代 女性

○世界中の人が来てくれてほんとありがたいことだね。**指が少し膨らんでいるけれど、リニューマチかな。**

10月10日 陸前高田・仮設 60代 女性

○遠くから来てくれてありがたい。**手が柔らかくて気持ちいい。**

10月17日 陸前高田・仮設 70代 女性

○六か月も仕事してないからねえ。ホタテは触ったことあるけど、人の手は触ったことないよー。と、冗談を言って私の手をマッサージしてくれた。**私の手、ごっつい手してるだろ？**

10月17日 陸前高田・仮設 70代 女性

○手すごいでしょ。**津波の2年前まで漁してたのよ。**お父さん弱くなってやめたの。ホタテをやっていて、朝2時から漁やって大きな機械で洗うの。50～60kgのホタテを2人で運ぶから手もすごくなっちゃうのよね。今は毎朝ラジオ体操して、これ以上筋肉落ちないようにしているのよ。

10月17日 陸前高田・仮設 70代 女性

○私の手ごっつごっつしててきれいじゃないの、**ずっと養殖の仕事をしていたからこんな手になっちゃった。**本当大変だったわよ。津波が来て船3隻流されちゃったの。畑もやられちゃって何もないの。だからもうやめちゃった。

10月18日 陸前高田・仮設 70代 女性

○手は冷たい方なの。気にしないでください。

10月18日 陸前高田・仮設 70代 女性

○昔は洋裁和裁の学校行ったから、その仕事してたの。**だから手がボロボロでしょ？**そういう道具も全部流された。家では何もしてない。これから寒くなりそうだね、今はまだ我慢できるけど。

10月18日 陸前高田・仮設 80代 女性

週刊つぶやき第20号／新たな土地・気候に関するつぶやき

ROAD事務局より◇週刊つぶやき◇第20号をお届けします。今回のテーマは【新たな土地・気候】です。

津波被害で仮設住宅に移られた方、また原発災害で避難された方たちは、新しい土地での生活を始められています。そこにはさまざまな苦労があります。今回は、特に気候の違いや土地勘のないことでの悩みなどを中心に取り上げています。

「400年ぐらいこのあたりに住んでいた」といったつぶやきもあったのですが、特に東北の農村・漁村の高齢の方たちにとって、馴染んだ土地から離れ、新たな土地に移ることのストレスは想像以上のものと思われます。

津波被害と原発災害では、被災者の土地に関する想いや今後の課題はまた異なるかと思いますが、新たな土地で生きざるをえない方たちの辛さに支援者は向き合う必要があるのでしょうか。

○仮設の壁が薄いから隣の人の声、丸聞こえなのよね。私たちの夫婦喧嘩も聞かれちゃってんのかしら笑。山からの吹きおろしが寒いよね～。そこ海で雪降ってなくてもここ山じゃ降ってたりするからね。

9月9日 気仙沼・仮設 60代 女性

○地形の関係で日が当たらない場所。夏は涼しくすごしやすかったけど、冬が寒そうで心配。不便な場所だね、近くに店がないし、買い物は車で気仙沼まで行ってるよ。移動販売者も来るけど高いから魚しか買ってないよ。

9月13日 陸前高田・仮設 70代 女性

○浜通りの方は潮風が気持ちいいよ。郡山は夏暑いね。冬は寒いね。

9月17日 郡山・仮設 70代 女性

○富岡からだよ。今は仕事は休業中だけどまた始められるかわからないんだよね。先が見えないから、不安がいっぱいだよ。知らない土地だしどこに何があるか分からないからねえ～。男性だとそんな話ができる相手がいないから、足湯はいいね～。

9月25日 郡山・仮設 50代 男性

○1月に仕事を引退したばかり、昔は仕事をしていただけ今は何もやってないからねえ。仕事はしばらくしてからやろうと思ったけど、避難しなくちゃいけないくなって、ここに来て場所がわからない土地勘がないから探しにくい。川内村と郡山は全然違う。

9月25日 郡山・仮設 60代 男性

○高田町に住んでだの。本当は高田の近くが良かったんだけど、なかなか当たらずで…。自転車しか乗れないから、今は息子の車に乗って滝ノ里のマイヤでまとめ買いしているのよ。周りに何も無いから不便だね。気候もわからないし。

10月11日 陸前高田・仮設 70代 女性

○自分が住んでいる時は思ったことがなかったけれど、家も流されて、写真で昔の景色を見ると、いいところ住んでたんだな～って思うの。海や山に囲まれて、本当にきれいなとこだった。

10月11日 陸前高田・仮設 70代 女性

○終戦後から頑張ってきて、最近は旅行にも行けるようになったけど、もうどこにも行けないね、一人暮らしは初めてで毎日薬で生かされてるんだよね。きれいな海だったんだよ、こんな山の中に住むことになるなんて。

10月18日 陸前高田・仮設 70代 女性

○10月小春といって、10月は暖かい日が多いのよ。ここは冬は雪が少なくないので助かるわ。でも、温度が低くなるので大変だよ。

10月24日 陸前高田・仮設 70代 女性

○お父さんが病気で、体を持ち上げるときに肩が痛い。お父さんを施設に入れて、東京の娘の所に5か月行っていた。山の方だから、熊が出るんじゃないかって話してるんだよ。

10月26日 陸前高田・仮設 60代 女性

○最近、寒くなってきていろいろ大変よ。ここは夜暗くて怖いし、不便ね。

10月26日 陸前高田・仮設 60代 女性

週刊つぶやき第21号／冬の寒さに関するつぶやき

ROAD事務局より◇週刊つぶやき◇第21号をお届けします。今回のテーマは【冬の寒さ】です。

仮設住宅での防寒対策が急ピッチで進められていますが、寒さに関するつぶやきも一気に増えてきています。寒さで体が痛む方、外に出るのがおっくうになる方に対して、どのように目を配っていくかが今後の課題となります。

また、寒い時こそ足湯の出番。足元から温まり、ほっとされるひとはこれまで以上に求められると思われます。



○仮設の人にはファンヒーターが来てるけど、在宅にはこれから石油ストーブが来ることになっているの。差が大きいの。

10月19日 大槌 60代 女性

○避難所では朝みんなで体操してたんだけど、仮設に入ってから、運動しなくなって太っちゃった。これから寒くなってますます外に出なくなるからなんとかしないとね。

10月20日 大槌・仮設 50代 女性

○前は畑をやってたんだけど、今は畑やることもねえから、痩せちゃって腕も細くなったわ。今はもう、これからは寒くなったからねえ。まだ隙間風とかはねえんだけど。愛車押し歩くカートで歩き回ってるよ。おらの愛車に名前付けて！今は「みよの2号」って呼んでるんだけどな。

10月24日 陸前高田・仮設 90代 女性

○夜は寒いからねえ、靴下3枚履いて寝てるよ。あー気持ちいいよ。

10月24日 陸前高田・仮設 60代 女性

○いつもいつもありがとう。寒くなったら誰も来ないのかい？足湯でなくていいから、顔見せにきてな。

10月24日 陸前高田・仮設 90代 女性

○左の足が痛い。寒くなると特にひどい。歩くのが大変。右の手は10年前に交通事故にあって動かせない。病院にもずっと通っていたが、今はもう通っていない。仮設に入ったら、やることがないので、ますます歩かなくなってしまった。

10月30日 岩沼・仮設 年齢不明 女性

○寒くなると手が痛くなる。足湯はあつあつで気持ちいい。もう今日風呂入らなくていいや。

10月30日 岩沼・仮設 70代 男性

○仮設が寒い。シャワーを浴びてもすぐ冷めてしまう。台所が特に寒い。足湯すごくポカポカしてきた。汗出てきた。朝寒かったからよかった。

10月31日 岩沼・仮設 30代 女性

○もともと手・足がほてってるんよ。それでも寒いのは寒いんで、9月からヒーター入れたのよ。ほんとに寒いんだ、仮設は。

10月31日 岩沼・仮設 80代 女性

○仮設はトイレや台所が冷えるから大変なの。

10月31日 岩沼・仮設 50代 女性

○今、金がないからさ。週2回、ガレキ拾いに行ってるのよ。朝8時から夕方5時まで、でももっと寒くなったら行かねよ。自分の身体の方が大事だろうがさ。でも、ちょっとでも金さ稼がねばな。

10月31日 岩沼・仮設 80代 女性

○足湯ありがとうね。今度は全身浸かりたいわ。15分ですよと言ったらもつと長い時間やって頂戴よ。家の風呂は狭いし、水道代高いの。床が冷たくて、足の調子が悪いのよ足首に何かできていた。

11月11日 石巻・仮設 70代 女性

週刊つぶやき第22号／「することがない」というつぶやき

ROAD事務局より◇週刊つぶやき◇第22号をお届けします。今回のテーマは【することがない】です。

仕事が見つからない、田畑が流された、大切な家族・友人を失った、生活環境や家族構成が変わった・・・さまざまな理由から、現在「することがない」と感じておられる方がたくさんおられます。

理由は様々なだけに、簡単な解決策はすぐには見つかりませんが、一人ひとりの方が自分の役割を感じられ、はりのある生活の中で、人とつながっていくきっかけを生み出すような支援のあり方を模索していく必要があります。

また、足湯の場にも出てこられない方や、お酒やパチンコにしかいき場のない方たちのことも、気にかけていきたいところです。

○なーんもすることがなくて、一日が長いんだ。病院の受付ボランティアや社交ダンスしてたけど今はやることないからねー。2階まで来たんだよ津波。1分1秒で助かったんだ。あたしだけ。8キロやせた。テレビ見ても見てるだけ何もわからない。こうやって人と話せると嬉しいよ。

9月26日 石巻・仮設 70代 女性

○仮設生活の方が避難所よりは良い。立ち話す人はいても、友人はできないなあ。もう 8 か月近くになるのにね……。靴下までもらえてうれしいわ。毎日ひまでひまで。

10月15日 石巻・仮設 60代 女性

○最近寒くなってきて嫌だわ。孫が病気になり心配。自分の勤めてた工場が流され、ハローワークに通っている。毎日暇だ。

10月15日 石巻・仮設 50代 女性

○足湯は初めてだけど、気持ちいいわ。他の人に手とかさわってもらうとほぐれるわ。仮設は狭くて。毎日ひまでひまで……。

10月15日 石巻・仮設 60代 女性

○震災後生まれて初めて腰を痛め、3か月も寝たきりになってしまった。かかりつけの医者も亡くなり、ヘルパーさんに週3日来てもらっていたが、親族から東京にいる娘を呼べと言われ、今は娘と二人暮らし。この中学校も取り壊されるそうで、さびしい。子どもたちがにぎやかにしている声だけでも聴きたい。娘が全てやってくれるが、することがないことが辛い。

10月19日 陸前高田・仮設 70代 女性

○お嫁さんが何もしなくていいと言うから、何もすることがないのも、つまらないよー。じゃがいもでもたけて言われたら何でもするのに。

10月19日 陸前高田・仮設 80代 女性

○去年の今頃は、稲刈りしてたけど、今年は何だか何もやることなくてなくて。なまってしまうな。

10月24日 陸前高田・仮設 70代 男性

○今日は何もやることがない。

10月30日 岩沼・仮設 30代 男性

○午前中はね洗濯したり家の事を済ませたり…特に何もすることがないんだよ。仕事がないのがいちばんつらいね今は。震災直後は生きている心地がなかった。朝起きてなんで自分はここにいるんだろうって思ったりもした。ご遺体が次々と運ばれてきて確認しに行ったりするのもつらかったよ。家族や親せきが生きているか死んでいるかもわからない。高田がどんな状況なのかもわからなかった。東京にいる息子や娘によろや連絡も取れても亡くなっ

た人に自分と同姓同名の人が出てたらしく無事を信じてもらえなかったんだよ。当時は十日間ほどお風呂に入らなかったし着るものも同じだったけど、人はこういう状況でも生きていられるんだって思ったね。ああ色々話して気分が晴れたよ。いつもはこんなに話そうって気持ちにはならないんだけどね。

11月1日 陸前高田・仮設 50代 女性

○震災前は海に出たり畑を耕したりしていたの。指太いでしょう。でも、今は毎日やることなくボケてしまいそう。

11月1日 陸前高田・仮設 70代 女性

○孫が学校にいて暇だから、お散歩いくんだー。昔は百姓をしていたの。

11月2日 陸前高田・仮設 70代 女性

○私は百姓やってて今は手がきれいだけど、昔はマメばかりだったよ。でも、津波が来て全部畑も道具ももってかれちゃって、今は何もしていない。毎日忙しかったのに、今はすることがなくてね。本当に退屈で困ってる。だから声がかかると必ず出てくるんだよ。

11月2日 陸前高田・仮設 80代 女性

○畑に海、若いうちは一生懸命働いただ。その合間にスチール工場に勤めた、この指薬指の曲がったのは草取りで曲がってしまっただ。一生懸命伸びないように引っ張っているが、なかなかおんねえ。今は何もすることがなくて、一日暮らしてる。

11月2日 陸前高田・仮設 80代 女性

○皆流されてしまって、話す人も一緒に歩く人もいないの。毎日することがなくてねー。

11月12日 石巻・仮設 70代 女性

○毎日酒を飲んで寝てる。することがないからいつもここ集会所に来てる。

11月20日 石巻・仮設 70代 男性

週刊つづやき第23号／出会い・再会に関するつづやき

ROAD 事務局より◇週刊つづやき◇第23号をお届けします。今回のテーマは【出会い・再会】です。

被災後、行方がわからずにいた家族や友人と再会された時の感動を語る方、避難所での運命的な新たな出会いについて語る方、ボランティアとの出会いを喜びながらすぐの別れを惜しむ方など、様々な「出会い」と「再会」に関するつぶやきを集めてみました。

足湯の場でたまたま居合わせて、探していた相手や実は縁のつながっていた人と出会うというケースはこれまでもちらほら見られました。

今後も、「出会い」や「再会」の結び目となるような足湯の場を少しでも提供していきたいです。

○3・11の津波に50年続いた家が流され、幸いにも両親、夫婦ともに避難しました。また、娘2人は東京の大学に通学しており、先週の土日に久しぶりに再会し、無事を確認、喜びを分かち合ってきました。今後は生命一家の絆を大事にして行きます。

8月29日 陸前高田・仮設 40代 女性

○地震が発生し、海辺の家を見に行ったら。”ゴーツ”という音がしたので津波かなと思い近くのビルの屋上に上がった。上がって5分しないうちにビルの外階段が無くなっていた。目の前で自宅が流されていった。翌日、自衛隊のヘリ部隊が東から音楽を鳴らしながら飛んできた。ビルの真上で停止し、ロープを下げてもらい、つり上げて救出してもらった。避難所で妻となる彼女と出会い結ばれた。避難所では当初からしっかり食事が出て、運についていたと思う。

9月23日 石巻・仮設 50代 男性

○震災発生から11日目に家族と再会できた。夫は5日に大橋の仮設住宅に入居したが、自分は失業と弟の死で病院通いで、別居していた。

9月24日 石巻・仮設 60代 女性

○震災後、再び土木の仕事に。震災があつて人と人とのつながりの大切さが分かった。支え合っていないと、人は一人じゃ生きていけないですね。

○○娘と嫁はもう宝物ですよ。震災あつて3日間会えなくて、諦めかけていたときに、偶然再会。涙でそうでしたよ。

9月25日 石巻・仮設 20代 男性

○職場で震災にあい、家族と別の避難所になった。そこで運命の人と出会ってよかった。震災がなければ、二人は出会うはずがないです。

10月14日 石巻・仮設 40代 女性

○海の近くの家で揺れがひどかったのでただ事ではないと何も持たずすぐに逃げた。だから助かった。主人はのんびりしていて逃げ遅れたが木の上に逃げて命は助かったが怪我をして3ヶ月入院し、入院場所も遠くて3ヶ月後にやっと会えた。孫も元気で家族は無事だった。

10月16日 亙理・仮設 60代 女性

○足湯はほっとするよ。本当にありがとう。昔の友達にもこういう広場で会えるし・・・。

10月19日 大槌 60代 女性

○東京から来たの？みんな遠いところから・・・。でも寂しいねえ。せつかく出会えてもまたすぐ帰っちゃうんでしょ・・・。

10月30日 岩沼・仮設 50代 男性

○隣のお友達がお姉さんの存在。実は互いの娘・息子が付き合っていたらしいんだけど、津波で二人ともいなくなった後、仮設で親の私たちが知り合った。津波の前に知り合えたらほんとはよかったんだけどね。

10月31日 岩沼・仮設 60代 女性

○友達と来ていて今じゃ言いたいことも言える仲なの。もっと早くに会いたかった。津波が来る前は、畑も庭もあったから、見せたかった。

10月31日 岩沼・仮設 70代 女性

○避難所で、旦那と会った。住んでた場所も仕事もまったく違うので、不思議な縁。旦那は、家も仕事もなくなり、親御さんも亡くなって、大変だった。でも、いろいろ優しくしてくれるの。夫婦そろって楽しみにしているよ。

11月19日 石巻・仮設 40代 女性

○いところが、震災以来見つからなくて数ヶ月して仮設の集会所でばったりと会った。友人の奥さんと偶然仮設で隣同士だった。再会があると皆でキャーと抱き合い喜ぶ。

11月20日 石巻・仮設 80代 女性

週刊つぶやき第24号／家族・夫婦に関するつぶやき

ROAD 事務局より◇週刊つぶやき◇第 24 号をお届けします。今回のテーマは【家族・夫婦】です。

足湯の場で話される「つぶやき」の中で、家族・夫婦のことに関するものは、最も多い話題のうちに入ります。震災で家族をうしなわれた方、離ればなれになってしまった方、子どもや孫の存在に支えられている方、新たに家族の絆をつむぎなおされた方…。

被災地外でも、震災を機に家族の関係を見直した人が多いというニュースもあります。

また、家族を喪い一人暮らしになってしまった方を支える関係づくり・場づくりも求められています。

○旦那が漁師してるから、今はばあちゃんと私と犬と 3 人暮らして時々しか旦那には会えない。息子も漁師やって、夫婦で近くに住んでる。最近孫が生まれたけど、仮設住宅には呼べない・・・狭いからね。銚子や他の場所の港におりた時には、4～8時間かけて旦那を迎えに行くんだよ。

9月2日 石巻・仮設 50代 女性

○今まで病気も怪我もしたことがない薬とは無縁で元気な主人が流されてしまった。まさかあんな大きな津波が来るとは・・・。主人は 10 日後に離れた所で発見。101 歳の母が健在。薬草ヤグルマ草などを娘である〇〇さんはまづくてとても飲めるものではないがその母は積極的に飲みとてもしっかりしているので驚くばかり。

10月29日 山元・仮設 80代 女性

○津波で主人と息子の 2 人をやられてたの。同時に 2 人死んだのでちょっとね・・・。3 人息子がいたんだけど 1 人を交通事故で亡くしているので、1 人になっちゃった。今は残った 1 人の息子と 2 人で住んでるの。19 年間一緒にいた孫達は津波で亡くなった息子の嫁の出身地の塩釜へ行っちゃったのでちょっと淋しいね。

10月30日 山元・仮設 70代 女性

○遠くから来ていただいてありがたいね。今日は朝から六人分の洗濯したのよ。孫が二人いてね。女の子なんだけどとってもかわいいの。子供の笑顔が一番うれしいわ。

11月1日 陸前高田・仮設 70代 女性

○近くに住んでいる息子の嫁がすごく性格悪いのよ。いつも会っても無視するのよ。仮設はどんなところか見てほしいね。

11月1日 陸前高田・仮設 80代 女性

○震災で主人を失っとるから、家で一人にいると思い出して辛くなる。でもこうして、みなさんが来て下さるから、そういう悲しいこともすべて忘れてリラックスできるの・・・ありがとう。

11月2日 陸前高田・仮設 80代 女性

○孫が 5 人いてね、一人女の子がいるんだよ。やっぱり女の子がかわいいね。双子の息子は、消防庁とスーパーに勤めてるんだよ。上がいおつもエラそうだね。今でもいばってるんだよ。

→ボランティアのコメント「ずっと家族の話をされていきました。家族の話をしているとき、本当に楽しそうだった」

11月2日 陸前高田・仮設 60代 女性

○手まで揉んでもらって申し訳ねえ。畑は小さいけど田んぼは 9 反もあったんだ。旦那はかずおって言うんだけど皆は怖いって言うけど本当は優しいいい人だったんだよ。もう死んだけど・・・。

11月13日 亘理・仮設 80代 女性

○震災があってから、神経が悪くなってね。そのせいで、足が動かなくて、歩けなくなったの。しびれちゃって。でも主人の葬式の朝、なんてか歩けるようになって。それで、そっから、がんばろうって、今は友達に電話したりさ、息子も電話してくれるし。

11月18日 石巻・仮設 70代 女性

○福島にいる息子が夜 10 時すぎに電話をかけてきた。寒くなってきたので心配だから、という。今まではめったに帰って来たこともなく、親のことなど考えてなかった息子なのに。家がなくなっても涙はでなかったが子供の優しさに涙が出る。

11月20日 石巻・仮設 70代 男性

○うちの夫は屋根を作る仕事をしていて、今日はお弁当持って出かけたからここに來られたの。震災の直後にはもちろん仕事も全然なくて、この先どうなってしまうのかと思ったけど、少しずつ仕事が来るようになって本当に良かった。いつもは夫をもんであげるばかりで、自分がもんでもらうことはないでしょ。だからとっても気持ちがいいわ。

12月7日 釜石・仮設 60代 女性

週刊つぶやき第 25 号／風呂に関するつぶやき

ROAD 事務局より◇週刊つぶやき◇第 25 号をお届けします。今回のテーマは【風呂】です。

仮設住宅での生活も、早い人はもう半年ほどになりますが、仮設住宅の環境の中で最もよく聞かれるものの一つが「お風呂」についてです。

追い炊きができないという不満は前からよく聞かれましたが、冬になり問題は大きくなってきています。

また、足湯によく来られる高齢の女性の中には、転ぶと危ないという理由で満足でお風呂に入れていない方もいるようです。そうした課題の解決策を模索すると同時に、足湯の時間だけでも温かいお湯につかってほっこりしてもらいたいところです。

○娘と孫が津波で流されてしまい悲しい。お風呂に追い炊きがないから、今の季節はいいが、冬は最後に入るとぬるくて寒くなるだろう。お風呂場で浴槽と洗い場に段差があってとても危ない。

9月11日 石巻・仮設 70代 女性

○今日ね、病院行ってきたのさ。ココに来たばかりの6月にね、お風呂で転んでアバラにヒビが入ったのさ。だけど、今日病院行ったら治ってるって。あとね8月にね、洗濯物干そうとしたらひっくりかえってテレビやら扇風機に倒れてしまってケガした。ここにきて2回ケガした。

9月26日 石巻・仮設 80代 女性

○1か月半ほどで水道が戻って家に戻れたんだけど、最初のお風呂に入ったあの感覚は忘れないよ！本当にお風呂ってこんなにいいもんだなって感じた。足湯はほっとするよ。本当にありがとう。昔の友達にもこういう広場で会えるし・・・。

10月19日 大槌 60代 女性

○仮設は湿気が多くて、カビがすぐに生えるんだ。これからもっと寒くなっていくから結露が心配だ。石油ストーブも使っちゃいけないし。風呂も追い炊きがないからシャワーだけだよ。エコって言うけど追い炊きできないから水もガスも無駄使いだ。

10月30日 山元・仮設 60代 男性

○寒くなると手が痛くなる。足湯はあつあつで気持ちいい。もう今日風呂入らなくていいや。

10月30日 岩沼・仮設 70代 男性

○何より音が気になる。おとなりさんが朝4時に洗濯機を使う。それで起きてしまう。他人の家の音が聞こえるということは、こちらの音も聞こえるということ。音を立てると主人が怒る。それが嫌で音をたてないようにすることが神経を使って本当に疲れる。お風呂にもう全然入っていない。シャワーだけは嫌だ。いい加減入りたい。

10月30日 岩沼・仮設 60代 女性

○仮設の風呂は狭いけど、避難所生活に比べれば幸せ。当時は段ボールを取り合うくらいだったの。今は幸せだよ、本当に。

10月31日 山元・仮設 70代 女性

○避難所で自衛隊が仮設風呂やってくれたときは本当に助かった。20人近く浸れたから。恥ずかしかったけども。

10月31日 山元・仮設 40代 女性

○当時は十日間ほどお風呂に入らなかったし着るものも同じだったけど、人はこういう状況でも生きていられるんだって思ったね。ああ色々話して気分が晴れたよ。いつもはこんなに話そうって気持ちにはならないんだけどね。

11月1日 陸前高田・仮設 50代 女性

○午後になって寒くなったねえ。一人暮らしのタイプなので、お風呂が小さくって足が伸ばせないんだよね。石油ストーブが支給されたけど、退去の時、そのままにしていかなきゃならない。

11月1日 陸前高田・仮設 70代 男性

○両膝から下が弱くなり、それでも杖なしで歩行している。腰や足が痛ければ昼からでもお風呂に入って、そうするとすごく楽になるからそうしてる。今日はこれでよく寝れる。

11月12日 亘理・仮設 70代 女性

○仮設だと寒い、すぐに冷え込む。お風呂もあつあつがしない。寝る前の足湯はしようと思わない。こうやってもらえるとあーいいなと思う。

11月12日 亘理・仮設 70代 男性

○田んぼがあったんだけど、全部流されちゃった。お風呂のお湯がすぐに冷めちゃうから入れなおさなきゃならないの。お父さんと私は、いいんだけど、息子の分は、冷めて入れなおさなきゃならないから、どうにかならないかねー。沸かしなおしができるのよ。

11月19日 山元・仮設 80代 女性

○避難所にいるときは三ヶ月もお風呂には入れなかったんだよ。今は三日にいったん娘が着てくれてお風呂に入れてくれるんよ。

11月20日 石巻・仮設 年代不明 女性

○足が痛くて、あがらないからお風呂でずるって滑るのが怖いよね。息子が近くにいるから安心なの。

12月3日 石巻・仮設 70代 女性

○仮設の風呂深くて私でも入ったり出たりが大変なのに、80過ぎた人はもっと大変だと思うよ。排水も悪くて・・・。

12月2日 石巻・仮設 70代 女性

○お風呂浴槽から出る時に滑っちゃって怖いんだよ。だからあんまり入らなくなっちゃった。喘息もあるし。避難所にいる時、苦しかったけどいろんなところからお医者さん来てたでしょ。薬もらって良くなったの。

12月2日 石巻・仮設 60代 女性

○寒いからコタツに入ってすぐふとんに入って寝ちゃうからお風呂は10日ぶりなのよ。足も洗っちゃおう。

12月5日 釜石・仮設 80代 女性

週刊つづやき第26号／子育てに関するつづやき

ROAD事務局より◇週刊つづやき◇第26号をお届けします。今回のテーマは【子育て】です。

足湯に来てくださる方は高齢の方が多いのですが、時々子育て中のお母さんも訪ねてくれます。お湯に子どもと一緒に足をつけるお母さんもいれば、足湯の時間だけ子ども託してほっとされる方もいるようです。子育てにとっ

て大変なのは、住む場所を決める際に子どもの学校との兼ね合いが難しいことだということも、つづやきから伝わってきます。

津波や原発被害でしんどい思いをしている子ども、そして子どもと日々向き合う親御さんたちを支える方策も考えなければなりません。

○息子の子どもがいて、ここで子どもは2人だけ。3歳と5歳。病院と保育所、特に保育所が大変。学校の件が心配なんだわ。

9月11日 石巻・仮設 50代 女性

○仮設住宅を早く出てどこかに家を建てて住みたい。ただ孫の学校のことがあるので遠くに越すのは難しい。津波が来たときに船のそばにいて船のへりにつかまっていた。もう助からないのかと思ったが、誰かが通るのが見えて大声で叫び助けてもらった。

9月13日 石巻・仮設 60代 男性

○学校に通うのに大変だから高校生の娘は北上に実家に預けている。一緒に暮らせればいいと思うけど、まあ、仕方ないよね。仮設も住めば都。私は結構気に入っている。でもそれは私のお父さん夫も仕事あるからかな。仕事のない人は大変だ。

9月13日 石巻・仮設 60代 女性

○ボランティアで来ている人皆さんやさしくてとても親切にしてもらった。悪い人はいないですね。皆さん遠いところからいらしててね。子供の方がキツイ言うの。分かってないとか、甘えてるとか、でも子供もきっと大変なんだわね。子育てあるから。

9月25日 郡山・仮設 60代 女性

○上の子6歳が毎日夜泣きする。もう慣れちゃったけど・・・。下の子はなんでも食べる・・・。子育てが大変。これから寒さが心配。

→ボランティアのコメント「足湯を楽しみにされているようです。しばらくの間でも子どもを他の人その場での託して一人でゆっくりできる時間はうれしいみたい」

10月14日 石巻・仮設 30代 女性

○娘の小学校が津波に飲み込まれたと聞いてもうだめだと思っていたけど再会出来て本当によかった。小学校はもうだめになっちゃったから他の小学校に間借りしている。今年是一度もプールに入れなかった。今後も思い出して辛い思いをしないか心配だ。

10月30日 山元・仮設 30代 女性

○午前中、雨降って仕事が休みになったから来た。息子が優しすぎてからかわれてるみたいで心配だ。公民館避難所にいるときは炊き出しを手伝ってたんだ。

10月31日 山元・仮設 40代 女性

○実家に避難してる時に学校が始まっちゃったから、転校してその近くの仮設に応募したの。自転車通学OKだから、乗って行けるのが嬉しいみたい。前は土日に仕事してたんだけど一年生の子が精神的にまいっちゃって、親にも今はそれどころじゃないんじゃないって反対されて今はしてない。本当は学校の時間だけでも働きたいんだけどなかなかないのよね。金曜日にハローワークが来るから見てみようと思って。津波のときは波が来る前に液化化になっちゃって車出せなくて学校に迎えにいけなかったの。今でも子供に言われる「何で来てくれなかったの？」って。だから何があってもすぐ行ける所で仕事があればと思ってるの。

11月20日 山元・仮設 30代 女性

○子供うるさくってすみません。人が大好きで人がいるとはしゃぐんです。小学校1年生です。何人いるんですか入れ替わりも多くて今は、20人と少しですかね。電車が、通っていないので引越すする人も多いんです。

11月20日 山元・仮設 20代 女性

○足湯はこないだ来て、娘がすごく気に入ったんですよ。朝はパパが出かけてから、二度寝してゆっくりでした。4月からおじょうさんが小学校に入学するという話のあとランドセルもね、支援物資でもらったんですけど、形も古いし色も限られてて…うーん。

12月11日 石巻・仮設 30代 女性

○なんだかんだうるさいけど、娘達がいってくれて、良かったわ。

→ボランティアのコメント「下の娘さんと一緒にタライで足湯をして、娘さんがとても嬉しそうでした」

12月17日 石巻・仮設 30代 女性

○前回も足湯やらせて頂いて…。息子が幼稚園ですね。来年小学校なんです。小学校が遠いんですよ。役所の向こうだから。明日は私仕事なんですよ。お父さんがいるからね。また息子は明日来るんじゃないかな。

12月18日 亘理・仮設 40代 女性

週刊つぶやき第27号／正月に関するつぶやき

ROAD事務局より、新年初の◇週刊つぶやき◇第27号をお届けします。今回のテーマは【正月】です。

震災後、初めての年越し、被災された方たちはどのように過ごされたでしょうか。年内の正月に関するつぶやきから、仮設住宅が狭いため、子どもや孫を呼べないと口にする方がぼつぼつおられました。社会全体が賑やかで盛り上がっている時こそ、孤立感が深まる恐れがあります。

年明けからすぐに足湯隊の派遣も始まります。今年も足湯の場を通して、「最後の一人まで」を気遣えるようなつながりを生み出していきたいと思いますので、皆さまどうかよろしくお祈りします。

○松林がなくなって風が変わったなあ～。そば屋をやっていたけど、今年は年越しそば作れないな。

11月2日 陸前高田・仮設 70代 女性

○埼玉のどこ？あら息子が住んでんだあ。足湯なんか孫にやってもらってるみたいだ。だってひ孫がいんだもの。孫つったって、40代だもの。埼玉はいいよね。地震も津波もないもの。来月には息子がくんだ。暮れと正月にかけてね。

11月11日 気仙沼・仮設 80代 女性

○町内の人はこの仮設では私だけ。ほんとうに寂しいね。他の人は同じとこ入れてもらったりしてるのに。私は一人暮らしだしね。ほんとさみしい。正月に催し物やってほしい、という意見が他の女性から出ると参加させてもらう！それはいい！

11月18日 石巻・仮設 70代 女性

○正月なんか、役所の人さ、何か一人に一個おまんじゅう配ったりね、して欲しい。65歳以上の人に一人一個とかさ。集会所で、何か子供に芸をしてもらったりさ。このひと隣の人を指差してみたいに民謡踊れるひともいるんだから、歌うたえる人もいるんだから。

11月18日 石巻・仮設 70代 女性

○旦那と 2 人で住んでるの。子どもたちはもうそれぞれに独立してて被災しなかったから。川崎に孫がいて、お父さんが車を運転して、よく運動会孫のなんかの時に行ったのよ。孫は小学 5 年生、3 年生の女の子で一番下の 3 歳が男の子。男の子はうるさくてねえ。夏には孫たちがこっちに来たの。家を壊すことになったから、それならその前に見とくべって行って。だけど仮設は狭いから、この正月は孫たちも来ないの。車も流されちゃったからこっちらも行かれないし…。

→ボランティアのコメント「口数の少ない方でしたが、お孫さんの話をする時だけは顔もほころび、本当に楽しそうでした。このお正月にお孫さんたちに会えないのは、とても淋しそうでした」

12 月 10 日 石巻・仮設 70 代 女性

○子供二人は東京の方にいるの。先月も遊びに来たの。毎年正月には帰って来たんですが、来年は無理。子どもや孫の顔を見るのが楽しみなんだがねー。いつになったら元に戻れるのかねー。

12 月 17 日 亙理・仮設 60 代 女性

○娘が大学生で、山形と盛岡にいるんだけど、正月戻ってきてもすることないからね。集まる場所もないし。仮設じゃ狭いしね。

12 月 18 日 陸前高田・仮設 40 代 女性

○お正月、娘のところに行ってこれからのこと話すのよ。このまま先が見えないのも困るものね。

12 月 19 日 亙理・仮設 50 代 女性

○お正月は毎年娘と息子が交代で来てくれてたんだけど、今年は仮設で狭いからね。近くの旅館とかに行こうと誘ってくれたけど、どこもいっぱいだし、山の方は雪が降って寒いから、暖かくなったらどこか連れてって話したの。でも家にいる時間が長いと体が硬くなってね。毎朝ラジオ体操みんなやってるの。散歩はみんな歩くペースが速くて私は半分。ここはとてもにぎやかな仮設だからいいのよ。

12 月 24 日 亙理・仮設 70 代 女性

○子どもは 2 人、孫は 4 人、子どもは東京にいる。仮設は 1DK で狭く、子どもが来ると押し入れに寝るしかなかった。正月にお子さんがいらしたりするんですか？今度、部屋多い仮設に移れることになったので、正月は引っ越しをするので子どもはこないんだよ。

12 月 24 日 亙理・仮設 70 代 男性

週刊つぶやき第 28 号／足湯の力に関するつぶやき

ROAD 事務局より、◇週刊つぶやき◇第 28 号をお届けします。今回のテーマは【足湯の力】です。

足湯ボランティアには、一対一でお話を聴くことが「心のケア」や「被災者の課題をつかむ」ということにつながったり、人が集まる「コミュニティづくり」の場を生み出すという効果があると指摘されています。

しかし、足湯は単にそうしたことを行うための「手段」ではなく、湯に足をつけてゆっくりしてもらうことで元気が出るという、足湯が本来持っている「力」があるようです。

1995 年 1 月 17 日の阪神大震災の時に、東洋医学を学んでいた人たちが始めたという足湯ボランティアは、時間と場所を超えて、今もその力を発揮し続けています。

○足湯は初めてだけど、気持ちいいわ。他の人に手とかさわってもらおうとほぐれるわ。仮設は狭くて。毎日ひまでひまで……。自分の息子は流されたけど、生きててよかったわ。

10 月 15 日 石巻・仮設 60 代 女性

○昨夜はよく眠れなかったけど、足湯で温まったから、今夜はよく眠れそう。一日おきに眠れなくなる。さっき仮設の人が足湯に入って、湯上りみたいで良かったって言ってたから来てみたんだ。

10 月 29 日 山元・仮設 60 代 女性

○この指右手薬指のここんとこ第二関節と手のひらの間痛いんだけど揉んでもらったら気持ちいいわ。もう気持ち良すぎちゃって。お父さんに電話しちゃう。足湯っていうから長いのにみんな並んでいるんだと思ってたけど、一人ずつならいいわね。

10 月 29 日 山元・仮設 40 代 女性

○仮設が寒い。シャワーを浴びてもすぐ冷めてしまう。台所が特に寒い。足湯すごくポカポカしてきた。汗出てきた。朝寒かったからよかった。

10 月 31 日 岩沼・仮設 30 代 女性

○ああ、こんな事は、言葉にならない、いえねえ。今まで、足湯は汗かくって思ってたがやってみたらよかったな。

11月1日 陸前高田・仮設 70代 男性

○最近だんだん寒くなってきてね、家の中に引きこもりがちになるのが心配だよ。こうやって足湯をして下さると憩いの場としてみんなと顔を合わせて話せるから、嬉しいわ。佐藤さん隣の方ともいつもは顔合わせて挨拶する程度だから、こうやって久しぶりにゆっくり話せてうれしいよ。

11月2日 陸前高田・仮設 50代 女性

○4月に足湯をさせてもらってから、足湯のファンになっちゃった。足も温かいけど、やってくれる人の心が温かくて胸にたまってるものが吐き出せるの。本当に遠くから来てくれてありがとう。

11月2日 陸前高田・仮設 60代 女性

○足湯ってどんなもんかやってみなきゃわかんないもんね。自分で体験しなきゃ。冷え性でね。いつも手足冷たいの。お風呂もあつたのにぎばつと入っておしまい。だからだめなのかしらね。でも、家帰ってご飯支度して、片づけるでしたら、あつというまに9時過ぎよ。ゆっくり入ってる余裕ないわよね。なんか私の足赤くなってない？やっぱり暖まってきてるのね。いやーびっくり！私の足があったかくなるなんて。寝るときも靴下必要なくらいなのに。こんなにぬるま湯で暖まるなんて！あなたもやってみなさいよ。お湯から出た後にわかるわよ。本当に暖まるわよ。ほら！こんなに経ってもまだあったかい！

11月11日 気仙沼・仮設 40代 女性

○足湯2回目です。自分でもやる。暖まるから。はっとして、もしかして3月にも来てくれた？湊小学校の避難所に。タオルで涙をふく8ヶ月だものね。地震が来てもいつでも逃げられるように、ひと月ずっと靴履いたままいたら、水虫になって、ずい分皮膚科へ通ったのよ。

11月11日 石巻・仮設 30代 女性

○今日2回目の足湯。足湯きもちいい。

11月12日 気仙沼・仮設 10代未満 男子

○仮設の湯はすぐ冷めるから体が温まらない。寝る前に足湯だけでも違うと聞いているけど、こうやってもらえると気分が良いですよ。

11月12日 亘理・仮設 70代 女性

○昨日、足湯をやってもらって夕方まで、足がぼかぼかして、靴下も履かずにすみ、良かった。

11月20日 山元・仮設 80代 女性

○昨日も足湯に来てやってもらったら、よく眠れたの。だから今日も来たの。

11月21日 山元・仮設 70代 女性

○いっぱい着込んで来たけれど、足湯で体全体がポカポカと温かくなってきた。気持ち良くなった。ありがとう。

11月21日 山元・仮設 60代 女性

○初めて足湯に参加。お湯の中に何か入れているの？ただのお湯でもこんなに温まるんだね。

12月5日 釜石・仮設 70代 男性

○腰が痛くて辛かったけど、足湯やってもらったら痛さがやわらいだよ。ありがとう。

12月9日 気仙沼・仮設 70代 女性

○私も安定剤もらってんのよ。でも、この前足湯してもらったら睡眠薬なしで眠れたの。あとグラスボールのCD流していると、いつの間にか眠れるからいいわね。今日のお湯は最初ぬるいかなーと思ったけど、後からポカポカしてきて、まだあったかいの。今日もきつと眠れるわ。あらめずらし、お父さんが足湯やる気になってる。

○冷たい足だけでなく、体まで温かくなったよ。16日も足湯をしてもらってよかったから来たのよ。

12月17日 陸前高田・仮設 60代 女性

○皆流されてしまって、話をする人もいなくて、毎日何もする事がなくて、今日は思い切って出てきたの。足湯始めてだけど気持ちいいね。本当に出て来て良かった。

12月26日 名取・仮設 80代 女性

○腰とひざが痛くてしょうがなく、そのうち肩もこっってくるの。足湯やってもらって、ポカポカしてきて、肩のこりもとれた感じがするよ。ああ、気持ちよくなった。

週刊つぶやき第29号／酒・タバコ・パチンコに関するつぶやき

ROAD 事務局より、◇週刊つぶやき◇第29号をお届けします。今回のテーマは【酒・タバコ・パチンコ】です。

震災によって仕事をなくすなど、することがなくなってしまった方、また友人やご家族との関係が断たれてしまった方などが、お酒やギャンブルに頼りがちになる場合があります。また、そうなることで、余計に周囲との関係が断絶していくこともありえます。

そのような方たちと丁寧に向き合っていくことも、今後の支援を考える際の大きな課題の一つです。

○仮設に入る前は神奈川県にいたんだ。仮設にいると何もすることがないんだ。だから、パチンコにいつている。機械をつかった仕事をしていらんだ。オペレーターをやっていたんだ。お祭りに行ってきた。

9月4日 郡山・仮設 60代 男性

○パチンコで4万円使って、4万円もうかったよ。母ちゃん奥様も来たがってたけど、足が悪いから来れなくなくてね。自分も足がしびれてる。9月中旬になったら山にマツタケを採りにいく。1日で2kgぐらい採れる。元々は林業の仕事をしていたんだけど今は仕事がなくね。木を切るときにカマでケガをした跡がたくさんあるんだ。腕や足や頭のキズ跡を見せてくださいました。

9月13日 陸前高田・仮設 70代 男性

○この辺はみんな下の町流されちゃったよ。それまでは商売やっていたんだよ酒屋。売る方も飲ませる方もやってたけど飲むと長居するからそっちはやめた。売ってても自分は全然飲めないんだ。

9月26日 陸前高田・仮設 60代 女性

○朝は4時起きで夜8時には寝ちゃう。仕事のない時は酒いちこ飲んでごろごろしている。仕事は大工みたいな感じ。母ちゃんとばあちゃんと子供2人で住んでる。子供は20代。6畳の部屋1つと4畳半の部屋2つ。関西から関東から仮設の手伝いに若い人が来ている。住まいと食事つきで1日2000円なんだって。

10月16日 亘理・仮設 60代 男性

○前にも足湯とマッサージをしてもらってよかったよ。今日は足湯だけでも良いよ。頭の手術をしてから半分がだめになって仕事はしていないでタバコばかり吸っている。外でタバコを吸うので寒いから暖かい肌着を上も下も着ているんだ。靴下も特別で遠赤外線だ。娘に言って買ってもらった。汚い足で申し訳ないねえ。

10月16日 亘理・仮設 70代 女性

○手のほぐしについて左からするのはなんでなんですかね。仮設住宅で酒ばっか飲んでますよ。タオルを差し上げようとしたときタオルは山ほどあるのでいいです。仮設住宅色々ある。どこにも同じだけお金は与えられていて、それをどう使うかだよ。

11月11日 気仙沼・仮設 30代 男性

○毎日酒を飲んで寝てる。することがないからいつもここ集会所に来てる。

11月20日 石巻・仮設 70代 男性

○毎朝ここで「朝礼」をしている男性が集まって、タバコしている。角田の畑へ出勤しているので、皆と会えるのはその時だけ。「朝礼」で、これから先のことを話し合っている男子会。これからは、先につながる仕事をしていかなければいけないと言ってるんだ。とにかく一歩前へ進まなければいけない。

12月18日 亘理・仮設 50代 男性

○仲の良かった友達と離れてしまって、今の仮設の人とは殆ど交流が無いから、こうしてボランティアの人と話せると気分転換になるね。最近ではパチンコにはまっちゃって。12月に18万勝って、今月は10万負けちゃって！でも、人生楽しまないかね！くよくよしても、しょうがないし。

1月14日 石巻・仮設 70代 女性

○今、パチンコ行ってきたの。負けた。勝つときは1000円、負けると1万円笑、でもタクシーで行くわけじゃないからね。歩いて行くから。いやあ、おみやげまでもらっちゃって・・・ありがとうね。

1月14日 石巻・仮設 60代 女性

○連れと2人で入ってて女房は午前中に足湯入ったんじゃないか？俺は午前中パチンコさ行って来た。この仮設の人はパチンコ行ってる人多いと思うよ、近いから。他にやる事もたいしてねえしなー。

1月14日 石巻・仮設 70代 男性

週刊つばやき第30号／将来への期待と不安に関するつばやき

ROAD 事務局より、◇週刊つばやき◇第30号をお届けします。今回のテーマは【将来への期待と不安】です。

将来に対する期待や不安は様々なものがありますが、やはり「どこに、どうやって住まうのか」という問題に頭を悩ませている方が多いようです。「仮設住宅以降」のまちづくりや住宅政策・雇用政策等に関する問題についても、徐々に議論を始めていく必要があるのかもしれない。

また一方で、期待や不安を率直に語り合える場づくりも求められていると言えます。

○政府に早く先の指針を出してもらい、2年ここにいた後はどこに住むことになるのか。それがわからないから、不安だし、今どうすればいいかわからない。青年会を解散するかどうか、残った仲間と話をしたけれど100年以上続いているみたいだから、一応名前だけ残してアレしようとなった。来年は盆踊りとかやりたい。笛とか太鼓と広場さえあれば出来るんだけど。

11月20日 山元・仮設 30代 男性

○本当にこんな津波が来るなんて思わなかった。大きな地震だったもんねえ。家は2階まで浸水して、でももうあそこには住みたくないからねえ。壊そうかって言ってるけど、まだ決心できてないの。壊したら家建てなきゃいけないしねえ。

12月9日 石巻・仮設 80代 女性

○孫と毎日会っていたのだが、小さい子は避難所大変だから、たいてい町の民間アパートを借りたのよ。それが、仮設として認められたからずっとそのままひと月に2回くらいしか会えなくてねえ。若い人たちは子供の学校とか皆町へ出て行ってしまっただけで残ったのはこんな人たち70歳以上。一次産業は後継がないと大変なんだよ。せっかくいるのに、こんな風に離れてしまっただけで何とかならないかねえ。

12月16日 石巻・仮設 50代 男性

○漁業関係の会社を経営しており、津波ですべてを失った。昼間は集会所に来て近所の方と話が出来て気がまぎれるが、夜になると今後の生活のことを考えて眠れない。

12月17日 亘理・仮設 70代 女性

○早く元通りになって、お祭りなんか出来るようになるといいんだけどね。

12月17日 亘理・仮設 70代 女性

○自分はラーメン屋をやってたの。流行ってたんだよ。店も流されてしまったけどね。五年後くらいにはまた店をやりたいな。

12月17日 石巻・仮設 70代 男性

○6人で住んでるよ。子も孫も仕事があるので安心。今までは、全員で「いちご」を作っていたが、流れてしまって、仮の仕事をしている。また、「いちご」をやろうと子ども達は言っているが、いつからできるのかな…？

12月18日 亘理・仮設 80代 女性

○お正月、娘の所に行ってこれからのこと話すのよ。このまま先が見えないのも困るものね。そんなに若い訳じゃないんだけど、やっぱりここは入り辛いわよね。私より年上の人達の場所って感じだものね。

12月19日 亘理・仮設 50代 女性

○亘理町の海岸沿いは、全国的に有名なイチゴの名産地。自分の家も農地も全て流されて何も無い。町からは移転促進地域に指定され、住むのは自由だが、公共サービスの提供は期待できない。集団移転とイチゴの集団農場イチゴファーム作りを行政から提案されているが、地質は今までよりも悪いので、おいしいイチゴが作れるか…。それ以上に心配なのは、今までは自己責任が明確で、努力した者／しない者はそれなりの報いが明確にあり、お互い喧嘩もなく過ごしてきたが、集団だと一生懸命働いたものと働いていない者とうまくやっていけないように思う。今、体は元気だが、一人になると、時々暗澹たる気持ちになる。今、町の臨時雇いですよ…。

12月23日 亘理・仮設 50代 男性

○一緒に組、部落で仮設に入れてよかったが、今後は心配。高台移転と言っても場所がない。今のところは、夕方に子どもの通学などで不安もある。再建に15年かかると言われるが、自分は80才を過ぎてしまう。すっかり元通りにならなくても、少しでもよくなるように前を向かなくては…。

12月25日 七ヶ浜・仮設 60代 女性

週刊つぶやき第 31 号／引っ越しに関するつぶやき

○仮設も 2 年だからね。2 年や 3 年じゃどうにもなんねえ。石巻は映画館もなくなったし。友達も大阪や相模原に行ったんだ。「もう石巻は住めねえ」って。しょうがねえな、運命だから。

1 月 14 日 石巻・仮設 60 代 男性

○避難所も物資が早くから入ったところとか、全然こなかったところとか、いろいろありましたから、仮設もいろいろで、これからですね。だから役所もとにかくこれからのことを早く説明してほしいですね。実施は遅くても説明がないと、これからの方針が見えないですから。そうすると、先行き不安ですから、だからとにかく早く説明してほしいですね。

1 月 15 日 石巻・仮設 60 代 男性

○土地だけ残ったけど、建物のローンも 9 年残ってて、新しい家買ったら二重ローンだよ。でも、いつまでもここにはいられないしね。電車の駅が決まれば、何か見えるんだけど、いつになるのか、町だか県だか国が決めて欲しいね。でも、こうしておしゃべりして笑うと忘れるから楽しいね。

1 月 22 日 山元・仮設 70 代 女性

○26 日に今後の住居について個別面談があるんだよ。1F をリフォームして住める人はいいいけど、土地と土台しかないから。あと 10 歳若かったら家建てるし、10 才歳とってたら借りるんだけど、60 代っていうのが一番難しいね。駅の近くに住みたいけど、駅の場所も決まってないから、面談って言われてもね。

1 月 22 日 山元・仮設 60 代 男性



ROAD 事務局より、◇週刊つぶやき◇第 31 号をお届けします。今回のテーマは【引っ越し】です。

津波被害や原発災害に遭った方たちにとって、「住む」ことと、それに伴う「引っ越し」は大きなテーマになります。

引っ越しに関するつぶやきからは、被災後これまでに避難所や仮設、親族の家等を転々としてきた方や、今後の引っ越しの計画を考えている方の声が聞こえてきます。年配の方の中には、新たな土地に馴染むのが難しく、ずっと住んでいたふるさとへ戻りたいという声も多いようです。長い目で見ると、仮設からの引っ越しという課題への対応も今後重要になっていくでしょう。

また、事務局でも福島等から東京へ避難している方への足湯を検討していますが、引っ越しによって県外へ出られるなど、把握が困難になる方への支援というのも大きな課題の一つです。

○息子の嫁の子 3 歳が行方不明で眠れない日を送り、睡眠薬に頼っている。やっと互理に引越してできる。

10 月 30 日 山元・仮設 80 代 女性

○体育館の避難所にいたんだけど、やっと慣れたと思ったら移動することになって。で、また慣れたと思ったら移動してと体育館では 3 回移動したのよ。で、仮設でしょ。やっと落ち着いたわ。だからやっと足湯に来てほっとできたわ。

10 月 31 日 山元・仮設 60 代 女性

○避難所で知り合った人と中 3 の子供と 3 人で住むのにふた部屋あるところに移りたいって言ったら引越することになったの。慣れてきたところだけど、行った先に知り合いもいるしね。

11 月 12 日 石巻・仮設 40 代 女性

○もう仮設を出て家買って出ていった人が居る。買った人は若くないよ～。50～60 代だよ。

11 月 19 日 七ヶ浜・仮設 70 代 男性

○子供うるさくってすみません。人が大好きで人がいるとはしゃぐんです。小学校 1 年生です。何人いるんですか入れ替わりも多くて今は、20 人と少しですかね。電車が、通っていないので引越しする人も多いんです。

11 月 20 日 山元・仮設 20 代 女性

○地震の時は、建物はなんともなかったの。最初に車が流されて来て、船が来て、隣の家が壊れて。一波が引いたときに、息子に言われて、高台に、曲がった腰で一生懸命逃げたの。それから大船渡や仙台の息子たちの所を次々と移っていったの。まさか、この年でこんなことになるなんて。

12 月 17 日 陸前高田・仮設 80 代 女性

○神奈川の相模原にいる娘が震災の 10 日目ぐらいに飛んできて、連れてってくれた。7 か月ぐらいいて戻ってきた。やっぱり長くいた地元にいるのが良い。

12 月 18 日 石巻・仮設 70 代 女性

○4 ヶ月平塚にいて、娘夫婦が二世帯住宅を申し出てくれて「死ぬまでここにいてくれ」と言われたが、やっぱりふるさとがいいので戻ってきた。牡鹿で駐車場をやっていたが、何もかもなくなってしまった。

12 月 18 日 石巻・仮設 80 代 女性

○仮設は 1DK で狭く、子どもが来ると押し入れに寝るしかなかった。今度部屋多い仮設に移れることになったので、正月は引っ越しをするので子どもはこないだよ。

12 月 24 日 亘理・仮設 70 代 男性

○気仙沼から名取の娘の所へ。娘の所を 2 ヶ所廻ってこの〇〇仮設へ。近くに息子達もいるが仕事で忙しく、中々逢えない。まったくの知った人のいないところで心細かったが今は、友達も出来一人も良いかなと思っている。ただ、病院に出掛けたいが新しい病院はなじめないで・・・足湯初めてだったけどありがたかったわ。

12 月 26 日 名取・仮設 80 代 女性

○6 月 24 日にこの仮設に入って、2 年間いるつもりだったけど、息子の会社のアパートが一部屋空いたので、来年早々引っ越しを予定しているの。さっき、そのアパートを見てきたのよ。

12 月 28 日 釜石・仮設 70 代 女性

○前はここの仮設にいたけど、今は別の仮設に引っ越したんですよ。今のところは 475 戸？500 戸近くある大きな仮設でこことは全然違う。こっちは仮設は人数少ないから、市役所に要望とか上げても、なかなか通らないから。小さいところは小さいなりに、大きいところは大きいなりに、それぞれ大変なところはありますよね。避難所も物資が早くから入ったところとか、全然なかったところとか、いろいろありましたから、仮設もいろいろで、これからですね。

1 月 15 日 石巻・仮設 60 代 男性

○地震の後は相模原の娘のところにお世話になってたの。こっちにきたのは去年の 10 月だね。だからまだ慣れてないんだ。ここは坂の上だし、年寄りには過酷だよ。

1 月 15 日 石巻・仮設 年代不明 女性

○南仙台に住んでいたけれど知らない人ばかりで、頭がおかしくなりそうだった。だから住んで 5 か月で仮設に申し込んだ入居は 9 月。ここは皆知ってる人ばかりでにぎやかで楽しい。この後、新築などの引っ越しでバラバラになった時、どうしようかと皆で話している。

1 月 20 日 亘理・仮設 70 代 女性

○着の身着のまま逃げた。小学校に行って、そのあと別の避難所に行って、それから娘のところで 2 ヶ月いた。支援物資がもらえることを知らなかったから、何ももらえなかった。

1 月 21 日 亘理・仮設 70 代 女性

週刊つづやき第 32 号／福島は今、に関するつづやき

ROAD 事務局より、◇週刊つづやき◇第 32 号をお届けします。今回のテーマは【福島は今】です。

今回ご紹介するつづやきは、福島県内の大学生を中心に結成された「FUKUSHIMA 足湯隊」の活動の中で聴き取られたものです。一時帰宅や除染の話、作った野菜を捨てなければならない話、小学校に子どもが少ないという話・・・他の地域とは異なるつづやきがそこには様々な形で含まれています。

日常の中で忘れられがちな福島の声に、これからも耳を傾け続けなければなりません。

○子どもたちは埼玉と須賀川で働いて、孫も一緒に行っちゃったから・・・
郡山は働き口があまりないみたいで。富岡で一緒だった部落の人とは全然会えなくて。今は近くの仮設の人くらいしか交流がなくて。同じ部落の人は全然いないのよね。仲がよかった人はみんな埼玉とかいわきとか行って仕事しているの。その人たちとは携帯で話したりしてるんだけど、月何万とかなっちゃって。最近は気をつけてるの。

11月6日 三春町・仮設 50代 女性

○5ヶ月半山梨にいたの。さみしくてね。やっぱり福島が恋しくて。山梨は景色もよくていいんだけど、1人だから気がくるいそうだった。今は緑ヶ丘に移って1ヶ月半くらいかな。お友達のいるから楽しいの。おじいちゃんが病気になるっちゃって今はデイサービスにお世話になってるの。昨日はショート使って一時帰宅に息子と行って来た。車より草が高くなっていて、もう何とも言えないよね。辛くなっちゃった。言葉が出ないよね。どうしようもないよね。でも色々持って来たよ。

11月12日 郡山・仮設 70代 女性

○足湯は初めてです。温かくて良いですね。全身が温まります。8月に仮設に来てやっと慣れてきました。**元々は富岡なんですけど、ここは寒くなるそうですね。**交通の便も大変です。私はここで高齢者の見守りボランティアをしているのですが、これから寒くなるので、さらに心配です。

11月26日 大玉村・仮設 40代 女性

○いつも足湯やってるの見てたのよ。でも、仕事中はいると周りの人の目がねえ・・・。今回やっと入れた。気持ち良いね！一時帰宅は今年はもうないよ。何を持って帰るんだって感じだよ。もう必要なものは全部持って来たんですか？**そうじゃないの。放射線まみれの物をもって来たくないのよ。もう諦めたよ。**

12月10日 郡山・仮設 50代 女性

○前はね、山のほうに住んでいて周りに家もないから、家の中で走ったり、戸をバンって開け閉めもやってたけど、今はつながってるでしょ。音が響いて迷惑になると思って、気を使っているの。それがストレスね。あとは先が見えないでしょ。何年帰れないって行ってもらったほうが楽だね。**今現場を除染してるでしょ、それから部落ごとに除染してって考えたらいつになるのか。帰りたいわよ。だって家があるんだもん。**今はこの辺を買い物したり、近くの人と話してストレス発散したい。だらだら過ごしてるよね。みんな受

けるのに慣れちゃって何もできなくなるんじゃないかって心配。特に高齢者の人はね。

12月10日 郡山・仮設 50代 女性

○3月16日にビッグパレットきたの。車がない人は役場からバスが出るからって言われて。**そのときに犬をつないてきた人がいてね。周りの草食べて死んでたって。草枯らす薬まいてたから、それを食べたからだね。かわいそうに。**もう一人の人も犬をつないできたんだけど、区長さんが帰るって言ったからエサやってくれってお願いしたんだって。それから何日間も区長さんのそばにいたんだって。浜の人で、大きいおにぎり持って行って、犬と半分コして食べさせてた人もいてね。2、3日エサやりに行かなかったら死んでたって。犬に抱きついて泣いてたよ。どうしてこんなことになったんだろうね。

12月18日 郡山・仮設 70代 女性

○今は隣近所に行って話して、家でテレビ見て眠くなったら寝てる。18時に川内が映るんだ。村長さん出たり。それは見逃さないようにしてる。**向こうでは、野菜作ってたよ。作るのが好きで、ぼとぼと捨てんだ。今は楽しみ減ったべな。**

12月18日 郡山・仮設 70代 女性

○娘が岡山に、息子が沖縄に避難してんだ。この前、岡山行って七五三やってきたんだ。久しぶりに見る孫はかわいいのなんのって。もう会えないかもしれないなあ。沖縄は遠いなあ。俺飛行機嫌いなんだよ。だから沖縄には行けないなあ。**富岡の学校が三春にできたんだけど、人数少なくてだめなんだって。30人くらいしかいないんだ。**ここの仮設は0歳から高校生までで10人ちょいしかいないんだ。

12月25日 郡山・仮設 年代不明 男性

○最初は悲しくて涙が出ないほど泣いたけど、今はボランティアさんが色々やってくれるから嬉しくて涙が出る一。ありがとね。山梨に最初はいたんだけど、福島が恋しくなってお父さんと戻ってきたんだ。**お父さん山梨いったらボケちゃって。私生きた心地しなかった。でも福島帰ってきたら少しずつ仲良くなってきて良かった。**

12月25日 郡山・仮設 70代 女性

○忙しかったからね一。仕事なんかする気になれなかった。落ち着いてやっとこれからだねえ。国からの支援があればねえ～。浜の国とこっちは違うねえ。だいぶ寒いよ。大学を卒業してからずっと富岡だよ。

12月25日 郡山・仮設 50代 男性

○今やりたいことはいろいろあるよ。畑から大工から植木の剪定から。富岡にいたときは、家に昼間上がったことはなかったくらいだから。でも今は、11時と4時からの時代劇みて一日中家にいるなあ。年取ってきたからかなあ。
1月8日 郡山・仮設 80代 男性

○いやー。久しぶりだね。よくビッグパレットに来てくれてたね。ボランティアで湯を運んだり客寄せしたり良い思い出だ。ビッグパレットにいたときの友達は今でも繋がっているよ。ただ、「ばらばら」になってしまった。仮設に入るときも部落ごとに入っていないから。今まで近所だった人とも離れ離れだよ。その事をもっと考えてもらいたかった。
1月8日 郡山・仮設 60代 男性

○除染の説明会が開かれていた除染しても意味ないべな。どうせ自然になくなるよ。川内でも私たちは帰れないけどね。除染は1回で70万もかかるらしく、それをみんなに平等に配ったほうが喜ばれる。
1月22日 郡山・仮設 70代 女性

○ずっと農家やってきたから、こっち来て何もやってないと調子くるっちゃう。私は農家やりながらお母さんの面倒みたんだ、三年間。その苦労わかるから、娘にそういう思いさせたくないんだよね。人生いろいろあるからねー。家に居てもいろいろ考えちゃう。私あと何年生きるんだろう。
1月29日 いわき・仮設 80代 女性

○借り上げだけど、足湯やっていると聞いてきました。会えてよかった。仮設はいろいろ保障とか助けてもらっていていいよね。ガス代も出してもらっているんだって。情報ほしくて携帯つかうけど料金も高くなるからね。
1月29日 いわき・仮設 50代 女性

週刊つづやき第33号／過去の津波に関するつづやき

ROAD事務局より、◇週刊つづやき◇第33号をお届けします。今回のテーマは【過去の津波】です。

今回被災された方の中には、1960年のチリ地震による津波や、1933年昭和8年の昭和三陸地震による津波の被害に遭われている方が少なからずおられま

す。そのつづやきからは、過去に津波を経験した方にとっても、今回の地震による津波が想像以上のものであったことが伝わってきます。

過去の災害から何を学ぶのか、今回の災害から未来に何を伝えていくのか、幾度もの被害を受けながら今を生きる方たちの声から学んでいきたいと思えます。

○前のチリ地震で一人だけ死んだの。それが私の夫だったの。25歳の時、それから子供を育てたの。子どもが大きくなって、一番辛かったのは「お母さんに『いってらっしゃい』と言われたことが無い」「ふつうはみんな言われるよ」。なぜって、私と一緒に朝出たからね、家を。でも、母さんのこと尊敬してるよって、嬉しかったね。
7月13日 陸前高田・仮設 80代 女性

○昭和8年の津波も経験している。戦争中は横浜の軍需工場にいて、空襲で焼け出された。いろいろあった今回含め、良く生き残ったなあと思う。
7月13日 陸前高田・仮設 80代 女性

○チリの津波にもあって、私は2回も津波にあったんだよ。海のこと、にくくて憎くてずーっと家には行けなかったんだよ。この間、7月20日にあの日以来やっと思えたんだ。土台しかなくて、塩もって清めてきたよ。でも皆そうだから、あきらめつくのも早いさー。
8月2日 陸前高田・仮設 70代 女性

○津波の時は民生委員なので、担当区域の高齢者をまわって、避難したんだけど、留守の家だったり、「だいじょうぶだから、家にいる」っていう人もいて、結局、2人なくなりましたよ。チリ地震津波がたいしたことなかったからね。みんなもそんなもんだと思っていたんだよね。
8月11日 山元・仮設 70代 男性

○今度の地震で家族は助かったけど、商店は瓦礫の中に埋もれてしまった。震災後10日間、支援物資が来なかったが、みんなで助け合った。ここの人たちは江戸時代から助け合って生きている。チリ地震津波の時は今回のような食料支援はなかったので今回はまし。
8月21日 気仙沼・仮設 80代 女性

○5歳の時、チリ地震でやられたから、チリに文句いってやろうと思って穴掘ってたんだよ。翌年は伊勢湾台風で家がつぶれて下敷になった。だから・・・私は天災女よ。天才ではなく天災よ。

8月30日 陸前高田・仮設 50代 女性

○チリ津波でもうちさ流されたから 2 回目。まさかこんなことになると思わなかったから同じとこさ建てたの。3 回目は同じところには建てられないね。

9月6日 陸前高田・仮設 80代 女性

○これからこたつ布団買いに行かなきゃ。津波が来るまでは本当にいいところだったんだけどね～。財産をたくわえたころまた来るんだね～チリ津波から。

9月26日 陸前高田・仮設 70代 女性

○チリ地震の時に大丈夫だったから、波がひいたときに家へ戻って整理したら大きいのが来てみんな流されちゃったのそこの住民の人たちの多くが。

9月27日 陸前高田・仮設 60代 女性

○チリの時は山まで来なかったが、今回は山まで来て全部流された。

9月28日 陸前高田・仮設 80代 女性

○チリ津波の時にも家流れたし……。あん時や予報なんてなかったよ。

10月19日 陸前高田・仮設 80代 男性

○チリ沖地震と今回で2回目だ。チリ沖の時は自宅が宮城県まで流されて、その家のダンスの中の大量の手紙奥様に宛てたものから TV 番組が持ち主探して訪ねてきて、TV 出演も体験したよ。最後は良い思い出の中、笑って終わりたい。

10月19日 陸前高田・仮設 70代 男性

○チリ津波の時は、「津波が来た。逃げろ逃げろ」と笑いながら逃げた、とお父さんに聞かされた。今度の津波は、波が見えたと思ったらあつという間に押し寄せてきた。このときは高田高校のあたりにいたんだけど、目が悪くてよく見えず、胸のあたりまで水に浸かり、流れてきた丸太にしがみついて、助かった。

10月26日 陸前高田・仮設 80代 女性

○今日は自分の家行ってきたんですよ。もうダメなんだけど、壊してないの。北上川のすぐ裏で、悔しくてね。家はもう 30 年経ってたけど、自分で建てた家だからチリ地震だって知ってたけど、あんなにね一悔しいわよねー。広い家だったから、今は 4 畳半。掃除だってすぐ終わってしまう。

11月11日 石巻・仮設 70代 女性

○浜の生活は良かった。いつも波の音を聴きながら寝てたの。今は皆家族も 4 人流されてしまったけどね。昭和 8 年の津波では家だけ流されたけど今度のは人も持って行ってしまった。

12月9日 石巻・仮設 80代 女性

○自分の家は 3 回津波で流されてるんだよ。今回もねえ、保険なんか全然でないしねえ。でも、こうやって同じ境遇の人たちと一緒にいるだろ。みんな家族のように思ってるんだ。持ちつ持たれつでさ、支え合ってるんだ。

1月29日 気仙沼・仮設 60代 男性

○山仕事や畑仕事一筋で 4 人の子どもを育てた。チリ地震にもあったが、今回ののは全然違う。何も無くなったが、ボランティアに来てくれる人々に会えてよかった。

2月1日 釜石・仮設 70代 女性

週刊つぶやき第 34 号／男性の閉じこもりに関するつぶやき

ROAD 事務局より、◇週刊つぶやき◇第 34 号をお届けします。今回のテーマは【男性の閉じこもり】です。

阪神淡路大震災の時から、年配の男性が仮設住宅で閉じこもりがちになる傾向が指摘されてきました。今回の足湯ボランティアの派遣でも、主に仮設住宅の集会所で実施する足湯に集まってくるのは、大半が女性です。

囲碁や将棋を置いてみる、男の料理会を開くなど、男性も参加しやすいイベントの工夫が各地でなされていますが、閉じこもりがちな男性に対してどう心を配っていけるか、今後も問われていくと思われます。

○出かけるの嫌いなんだよね。めんどくさくってさ。メガネ選んでって言われたけど、見えりゃなんでもいいんだよ。新聞見えなくてさ。ムダに遠くは見えるんだよ。手のひらを広げるマッサージは気持ちいいね。

10月30日 山元・仮設 40代 男性

○だんなは目があまり見えなくて家にこもりがちな。一緒に連れてきた。だんなは体重が軽いんだよ。40Kg 台しかないんですよ。骨が細いんですよ。でも丈夫なの。病氣しないもの。

10月31日 山元・仮設 70代 女性

○ボケないためにやってんだよ、将棋。でも、頭使いすぎると頭痛くなるし疲れちゃうから早めに帰ってきちゃうけどね。ほら、男ってさ、あんまり出掛けないししゃべんないからさ、たまには人の集まるところにでも行っとかないとね。

10月31日 山元・仮設 70代 男性

○これで足湯は2回目。前も寒かったけど、男の人がいっぱいいた。今日はいないなあ…。何もしてないのだから、出てくればいいのに…。

11月25日 気仙沼・仮設 60代 男性

○女性は出てくるけど男性はほとんど来ないでしょ。友達さそってきてください。友達いないからなあ。

12月5日 釜石・仮設 70代 男性

○やることないからなあ。やっぱりテレビかなあ。でも最近知らない人ばかりだから、そう出てる人。時代劇は好きだよ。あとは演歌かな。

12月11日 会津・仮設 70代 男性

○今日は寒い。今年雪積もったのは初めてだ。もう解け始めてるけど、日陰はまだだ。一人暮らしで家族もいないから、ずっと家でテレビ観てる。

12月18日 陸前高田・仮設 50代 男性

○イベントはあっても来る人は限られるよ。家にこもっている人はけっこう多い。買い物は送迎バスがあるから助かるけど、行く人はやっぱり少ない。ここに来る人はしゃべりたくて来ている。

1月14日 一関・仮設 60代 男性

○他の男の人たちはね、声かけても出てきてくれなくてね、いつも女の人たちに囲まれてるんだ。まあ仕方ないよなあ。一人がいいって人もたくさんいるからなあ。昔からの言い伝えもあるけど、油断は本当に大敵なんだ。

1月29日 気仙沼・仮設 70代 男性

○じいさんは農業しなくなってから外でなくなってね。動かない生活始まって、それから身体かたまって動けなくなっちゃった。

2月4日 亘理・仮設 80代 女性

○男は40代までしか仕事無いな。50代じゃ難しい。ここいらでも若い人でも仕事無い。やるごとがねぐて、男はうちから出ないで。1年にもなるのになあ。おれは毎日ここ集会所来てるけど、他は男来ねえもん。女の人ばかり。同じ七ヶ浜と言っても、集落違うととつきにくいよ。若い人らは特にな。なかなか話すこともないよ。

2月5日 七ヶ浜・仮設 男性

○こういう所があるっていうのはいいねえ。昔は年寄りも親戚の家をたらい回しのように回ってたから…。おじいさんはイヤがってこないんだよ。年取っておっくうだから。

2月13日 陸前高田・仮設 年代不明 女性

○隣に住んでるのが、どっちも男んだけどさ、全然顔合わせないしさ、わかかんないんだよ。ここに来てる人はまあわかるけどさ。

2月19日 石巻・仮設 70代 女性

週刊つぶやき第35号／海に関するつぶやき

ROAD事務局より、◇週刊つぶやき◇第35号をお届けします。今回のテーマは【海】です。

足湯を始めた当初から、津波の被害に遭った沿岸部の方たちのつぶやきには、漁に関する話を中心に、海についての語りが数多く含まれていました。そこからは、津波被害に遭われた方たちにとって、暮らしの中で海との関わりが切っても切れないものであったことがうかがえます。

自らの海での仕事について語るとき、生き生きと、誇らしげになる方が多いという話もよく耳にします。被災した方が今後どこに住むのかという課題は、今後海といかに付き合っていくのかという問題と切り離しては考えられないように思われます。

○仕事で左手が疲れてんだ！仕事はあわびを開く仕事。失敗したらあわびはだめになるから大変。私は家が少し近くの別の仮設だけど、津波で家がなくなったから直接海風が吹いてきて寒い。この間は家が吹き飛びそうだったわ。（12月7日 釜石・仮設 80代 女性）

○荒浜で網の修理してるんだ。津波で何もかも、家もなくなっただけ、海苔の養殖が再開できるまで3年かかる。(12月24日 亙理・仮設 70代 男性)

○家築7年は流されちゃってね～。海から200mほどに建っていたんだけど。松林がたくさんあったからそんな近くには感じなかったのよ。でも、今松林も流れた状態で見ると、やっぱり近かったんだね。(1月7日 岩沼・仮設 50代 女性)

○手をもむといいの？一人でもんでもいいかもねー。立派な腕でしょ。海で働いてきたから。(1月8日 七ヶ浜・仮設 60代 女性)

○七ヶ浜はすごくきれいな海だったの、ほんとに。で、津波の後、ずーっとなんか変な色だったんだけど、12月くらいからまたきれいな色になったんだ。冬になるときれいになるからかな。(1月8日 七ヶ浜・仮設 60代 男性)

○この指は中学出て漁師しているときにけんかでやったんだ曲がらなくなってる。この傷はまぐろ漁でできたんだ。今と昔はちがうの。(1月15日 気仙沼・仮設 70代 男性)

○いまね、シャッコエビの網作ってるの。シャッコエビ分かる？すし屋でよく出てくる。この辺はね、いっぱいなんだよ。漁場なんだ。今はまだ土の中に隠れてっから、今網作って、4月5月ころになったら捕んだー。いま足湯入って、手も揉んでもらったから、これからまたパーっと網作るからね。(1月20日 石巻・仮設 70代 男性)

○この年になって人の温かみがわかった。この間も兵庫から来てくれた。淡路の地震の時、漁師やってたから、気仙沼から物資もって船で行ったの。そしたらそんな時のこと言っててね。情けは人のためならずって言ってね。良いことも悪いことも自分に返ってくるんだね。(1月28日 一関・仮設 80代 男性)

○どうしても漁師になりたいくて、10年住んでた石巻市街から家を建てて引っ越した。それで2年で震災にあった。7～8月にカキのタネを獲るんだけど、どういうわけだか、この海で獲れた。6人の仲間で作っているんだけど、また仲間には話してないけど、ネット販売できるようにしたいんだ。(1月29日 石巻・仮設 30代 男性)

○釜石に行って帰ってきたところ。タコ取りに行ってきた。タコのかご50ぐらい入れて、タコがひっかかる。3月20日頃は、海から月が上がる。(1月30日 釜石・仮設 70代 男性)

○息子・娘が内陸の方住んでて、こっちおいでって言うんだけど、お父さん夫がまた海の仕事をしたいっていうんだから、残ってるの。(1月31日 釜石・仮設 60代 女性)

○昔若いころ農業やってたから。田んぼやって畑やって。それが大槌に嫁に来たら、今度は魚でしょ笑。水産加工の工場さ勤めて。防寒服着て冷蔵庫の中入って働くのよね。しもやけできたりして。家は海沿いであって、ホントに海の中に家建てたようなもんだな。で、全部流されて、なーんにも無くなっちゃって。(1月31日 遠野・仮設 70代 女性)

○時々海、家のあったほうまで歩くんだ。片道1時間半。夜は眠れてるよ。(2月13日 釜石・仮設 60代 男性)

週刊つぶやき第36号／被災体験に関するつぶやき①

ROAD事務局より、◇週刊つぶやき◇第36号をお届けします。今回のテーマは【被災体験】です。

東日本大震災から1年を経過しましたが、被災当日の記憶を語る方はいまだ途切れることはありません。そこで語られる言葉は驚くほど鮮明で、あの日からまるで時間が止まってしまっているかのように感じられます。

1年に際して多くのマスメディアが震災当日の様子を特集しましたが、足湯ボランティアたちは、この1年間ずっと、こうした声に寄り添い続けてきました。

あの日を忘れないために、またあの日の記憶を抱えて今を生きている人たちのことを忘れないために、何度かに分けて、聴き取られた被災の記憶をご紹介します。

○本当にこんなになるとは思わなかったからね。すごい揺れで立ってるのがやっとだった。飼ってる猫が逃げちゃって。何度も何度も呼んだら波来るちょっと前に戻ってきて。私は海辺の育ちじゃないから、津波ってよくわかんなかったんだけど、主人は海辺なので、こりゃ大きな波来るぞって言って

逃げたの。逃げた時、ラジオで仙台空港に波来たって言ってたから、多分ほんとにギリギリだったわね。(1月6日 岩沼・仮設 60代 女性)

○津波の時は息子が迎えに来てなんとか逃げられた。家に帰ると木が家にささっていて、家が90%曲がっていた。豚が何頭も死んでいたんだからそりゃびっくり。どこかの牧場から流れてきたのかねー。でもこれは実際にみなきゃわからない。もうさすがにないと思う。(1月7日 岩沼・仮設 50代 女性)

○昭和8年の津波も、チリの津波も、たいしたことなかったから。何にも持たずに逃げたからさ、それでおしまい。てぶら。目の前で家も流されていって、あーあ一言うだけ(1月28日 陸前高田・仮設 90代 女性)

○私ね、3月11日の当日、津波警報が聞こえなかったの。でも、夫が「絶対これは、津波が来る」って言うから一緒に逃げたの。逃げてよかった。あんな大津波が来るなんて、思いもしないじゃない。(1月29日 気仙沼・仮設 70代 女性)

○津波が来た時、息子が車で迎えに来てくれて。「早く乗れ！死ぬぞ！」って必死で乗り込んで、でも途中から車から降りて山を駆け上ったんだよ。神社でたき火たいて、その晩過ごしたの。福島の中で、7,8回変わってここ東京に来たんだよ。(2月6日 東京 70代 女性)

○地震の時はコメリのお店にいて下からどンドンと突き上げられて、あんなふうになったのは初めてだった。本当にすごかったよ。(2月18日 山元・仮設 60代 男性)

○震災がおきて娘と一緒に車に財産？とか乗せて避難した。火災とかで燃えたから小学校の校舎がすすだらけで黒くなってたの。車を止めて校舎の中に避難して、そしたらビルの高さぐらいの黒い波がきて校舎の中にも入ってきた。黒いのは地面の泥とか全部持ってきたからなの。黒いから目をあけても何も見えないし、必死に口と鼻をふさいで飲み込まないようにした。目をぎゅっつづつって、耳では波の音がゴーゴー聞えるだけで恐怖のどん底だった。(2月19日 石巻・仮設 50代 女性)

○津波が来たときは高台にいて、下にいる人に逃げるように声をかけて、3人は助かったけど、1人が流されてしまいました。(2月24日 釜石・仮設 60代 男性)

○ちょうど津波の時、孫が来てたの。なんでそこにあるのかわからないけど、子どもが赤ちゃんの時のひもが2本あって、それを使って孫をおぶったの。10kgぐらいあるけど、ひもがないと抱えても走れないでしょ。裏口の鍵は閉めたか覚えてないけど、ガスの元栓は閉めたのね。その時に「はっ財布」って思ったんだけど、自分の母親がうるさく昭和の時の話をして、「取りに帰ったら電柱が倒れて火事になって戻ってこなかった人がいたから、絶対戻っちゃいけない」ってうるさくて、その時はうるさいと思ったけど、そのおかげで助かったのよ。それと、坂道が2つに分かれていて、直前までゆるい右側にいこうと思ったのに、なぜか左の急なほうに行って助かったの。(2月25日 釜石・仮設 70代 女性)

